

VI 平成13年度調査の報告

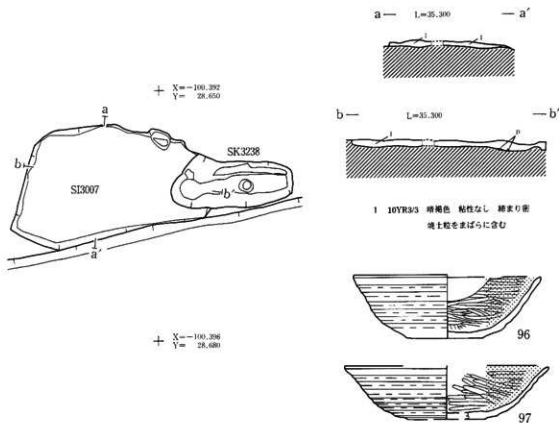
1 遺構と遺物の概要

縄文時代と思われる土坑37基、古代の竪穴住居跡3棟、近世から近代にかけてと思われる建物跡4棟、井戸跡6基、溝跡7条、馬蹄形状周溝5基を検出した。遺物は遺構外から縄文時代と思われる石器が、古代の土師器、須恵器、近世から近代にかけての陶磁器等が出土している。

2 竪穴住居跡

S13007 竪穴住居跡 (第60図 写真図版61)

調査区のはほぼ中央部で検出した。南東コーナーは耕地整理により削平されている。長軸はほぼ東西で2.94m、短軸は1.92m、検出面からの深さは10cm程度を計測する。埋土は暗褐色土の単層で焼土粒が混入する。カマドやその火床、煙道は検出してない。壁溝、柱穴も検出してない。遺物はロクロ成形された土師器の坏と甕を出土している。坏2点については実測可能であったが、甕については小片であることから実測図、写真等掲載していない。96は口径14.9cm、底径5.8cm、器高5.6cmを計測する。ロクロ成形で、外面は橙色、内面は黒色処理がされミガキ調整が施される。胎土は緻密で焼成はやや悪い。回転糸切りのように思われるが、摩滅のためはっきりしない。97は推定口径16.2cm、底径6.2cm、器高4.3cmを計測する。ロクロ成形がされ外面はぶい黄橙色、内面は黒色処理がされミガキ調整が施される。胎土は緻密で焼成はやや悪い。回転糸切りと思われるが、摩滅のためはっきりしない。

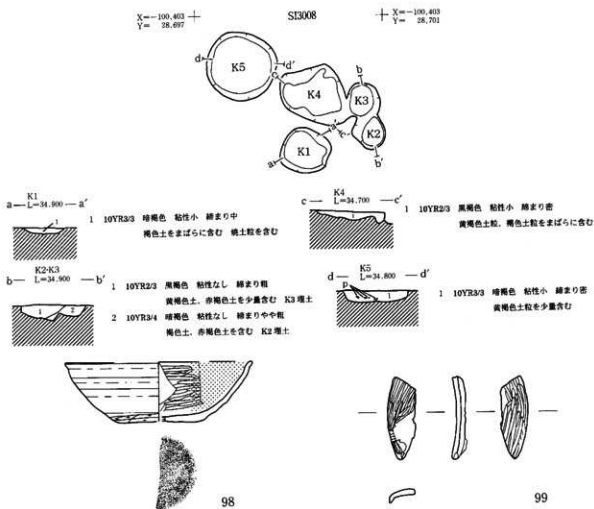


第60図 S13007竪穴住居跡

S13008 竪穴住居跡 (第61図 写真図版62、63)

調査区中央東寄り、段丘寄りで検出した。ほとんどが削平されており、わずかに立ちあがった壁も精査時には消滅してしまった。埋土もほとんど残っておらず、検出時の写真だけが埋土の状況を記録したものである。この時点では、埋土と思われる暗褐色土のが南北に2.7mほど、東西に3mほどの広がり方が確認できた。カマド、柱穴は確認できなかった。

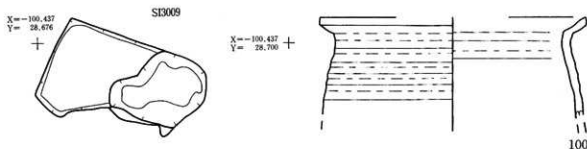
竪穴住居跡には土坑が5基確認された。この竪穴住居跡に伴うものかははっきりしないが、便宜上伴うものとして、それぞれk1からk5として登録した。k1からk4までは平面形がすべて不整形である。遺物も出土しているが、すべてが小片で実測図等は掲載していない。k5は円形状で土師器の坏(98)と器種不明の土器片(99)が出土している。98は推定口径14.4cm、推定底径6.2cm、器高4.8cmを計測する。ロクロ成形で、外面は明黄褐色で、底部付近にはケズリ調整が施される。内面は黒色処理され、ミガキ調整が施される。胎土はやや粗く、焼成はそれほど悪くない。底部切り離しは回転糸切り無調整で、縁部が多少摩滅している。99は現存長6.6cm、幅2.1cm、高さ1.1cmを計測する土師器と思われる器種不明の土器片である。便宜上、図面の左側を外面、右側を内面とする。内外面とも黒色処理され、ミガキ調整が施される。外面には粘土の剥落痕があり、突起状の物がついていた可能性がある。縁部は内側にほぼ直角に折れ曲がる。形状は蓋のようであるが、はっきりしない。胎土は緻密で焼成はやや悪い。



第61図 S13008竪穴住居跡

SI3009 竪穴住居跡 (第62図 写真図版64)

調査区南東、段丘寄りで検出した。削平されている。検出できた部分では長軸が北西—南東で2.35m、短軸1.35m、検出面からの深さが5~10cmほどを計測する。埋土は暗褐色土の単層で、削平により非常に薄かったことから記録していない。柱穴、カマド等も検出できなかった。遺物は床面からやや浮いた状態で土師器の甕(100)が出土している。推定口径21.1cm、現存高8.1cmを計測する胴部上半から口縁部にかけての破片である。ロクロ成形される。胎土はやや粗く砂礫が混入する。焼成はやや悪い。



第62図 SI3009竪穴住居跡

3 土坑跡

37基検出した。ほとんどが縄文時代と推察される土坑である。個々の土坑については触れず、遺物が出土した土坑のみについて報告する。その他のものは一覧表を参照願いたい。

SK3169土坑跡 (第63図 写真図版65)

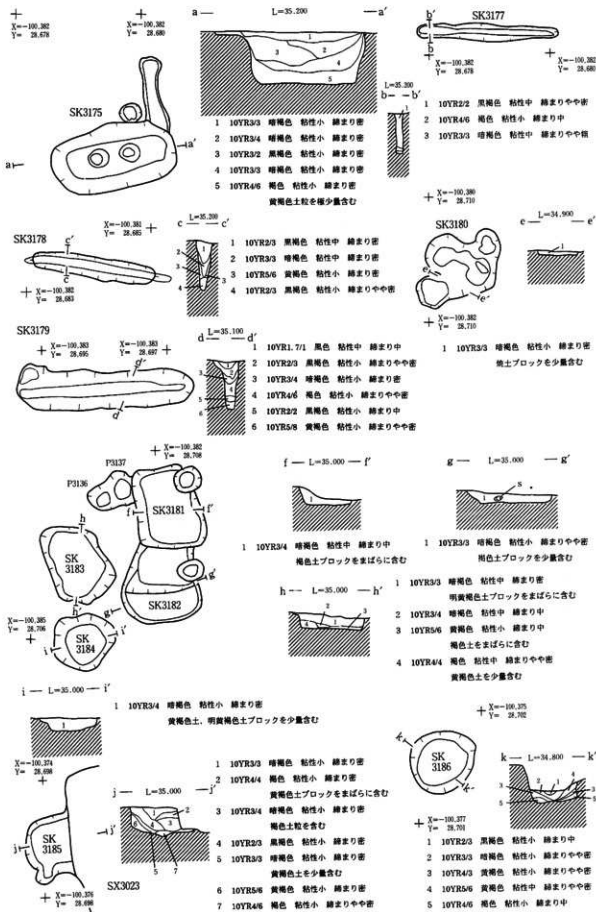
直径58cm、検出面からの深さ22cm程を計測する平面形が円形の一部分が壊れた形をする土坑跡である。埋土は赤褐色の焼土粒を含む暗褐色土が主体を占め、底部壁面に黄褐色土がブロックで堆積する。主体を占める暗褐色土には焼土粒のほか炭化材粒の混入も観察できる。遺物は土師器の坏片(101)が出土している。この坏は推定底径5.2cm、現存高3.7cmを計測する。ロクロ成形で外面は灰黄褐色、内面は黒色処理がなされミガキ調整が施される。胎土はやや緻密で焼成はそれほど悪くない。回転糸切り無調整である。

SK3170土坑 (第63図 写真図版65)

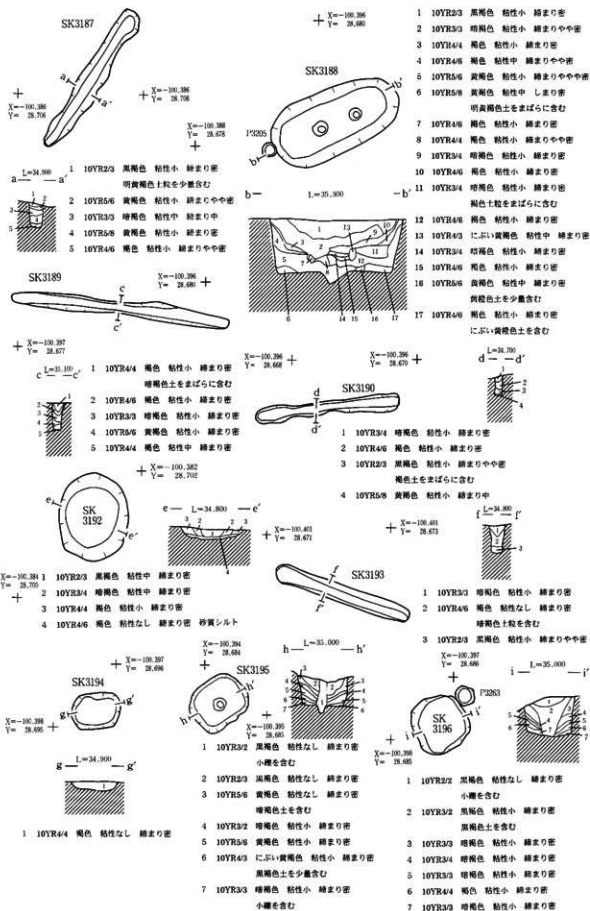
直径約1m、検出面からの深さ20cm前後の底面がフラットな浅い土坑である。埋土は黒褐色土の単層で、褐色土がまばらに混入する。遺物は石甕と思われる石器(102)が出土している。長軸5.4cm、短軸3.5cm、最大厚1.3cmで重量は27.60gを計測する。

SK3173土坑 (第63図 写真図版66)

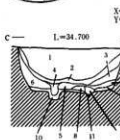
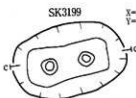
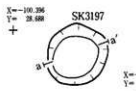
長軸ほぼ東西に2.0m、短軸0.22m、検出面からの深さ0.68mを計測する陥し穴と思われる土坑である。埋土は黒褐色土と褐色土、または黄褐色土が交互に堆積する。褐色土、黄褐色土は壁面等が崩壊したものである。底面の幅は10cm前後と非常に狭く、長軸両端は内側に入り込む。遺物は石匙(103)が出土している。長軸4.9cm、最大幅1.65cm、重量4.43gを計測する。



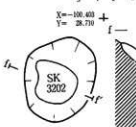
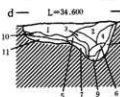
第64図 土坑跡(2)



第65図 土坑跡(3)



$X=-100.389$
 $Y=28.705$



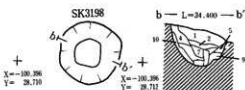
$X=-100.402$
 $Y=28.709$

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まり密
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
褐色土をまばらに含む
- 3 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密
褐色土粒を少量含む
- 4 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
- 6 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 7 10YR4/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密
- 8 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
黒褐色土ブロックを含む
- 9 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
におい黄褐色土ブロックを含む

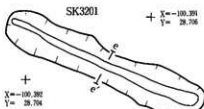
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まり密
- 2 10YR4/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密
明黄褐色土ブロックをまばらに含む
- 3 10YR6/6 明黄褐色 粘性小 締まり密
- 4 10YR3/4 におい黄褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR6/4 におい黄褐色 粘性小 締まり密
暗褐色土粒を少量含む
- 6 10YR6/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 7 10YR3/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密
暗褐色土粒をまばらに含む
- 8 10YR3/4 におい黄褐色 粘性小 締まり密
明褐色土粒をまばらに含む
- 9 10YR6/4 におい黄褐色 粘性小 締まり密
明褐色土を多く含む
- 10 10YR5/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密
- 11 10YR4/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密

- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まりやや密
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
- 3 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
- 4 10YR4/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まりやや密
- 6 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり密
- 7 10YR4/6 褐色 粘性中 締まりやや密
- 8 10YR5/6 黄褐色 粘性中 締まりやや密
黒色土粒を少量含む
- 9 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
灰黄褐色土をまばらに含む
10. 11 層は掘りすぎ

- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
- 2 10YR3/1 黒褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土ブロックを含む
- 3 10YR4/1 暗灰色 粘性小 締まりやや密
黄灰色土ブロックを含む
- 4 10YR3/1 黒褐色 粘性中 締まりやや密
褐色土粒を少量含む
灰色土ブロックを含む
- 5 10YR3/1 黒褐色 粘性中 締まりやや密
黄灰色土粒を下部に含む



- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
- 3 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
- 4 10YR4/3 におい黄褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
- 6 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
- 7 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
- 8 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
- 9 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
におい黄褐色土を含む
- 10 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
- 11 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密



- 1 10YR2/1 黒色 粘性小 締まり密
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性小 締まり密
におい黄褐色土を含む
- 3 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
明黄褐色土粒をまばらに含む
- 4 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
褐色土を含む
- 5 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
暗褐色土を含む
- 6 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 7 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密

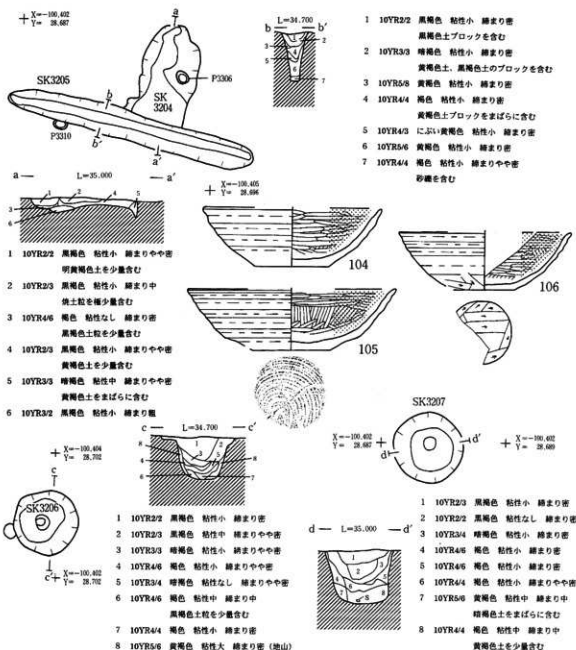


- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まりやや密
微土粒を少量含む
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まりやや密
黄褐色土をまばらに含む

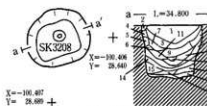
第66図 土坑跡(4)

SK3204土坑 (第67図 写真図版74)

長軸、南北に1.7m、短軸0.91m、検出面からの深さ0.23mを計測する平面楕円形の土坑跡である。SK3205土坑跡と重複し、本遺構の方が新しい。埋土は黒褐色土を中心に堆積し、一部に褐色土、暗褐色土が堆積する。遺物は土師器の坏、甕片を出しているが、実測できるものは土師器の坏のみであった。104は推定口径14.1cm、推定底径5.9cm、器高4.7cmを計測する。ロクロ成形で、外面は明黄褐色、内面は黒色処理されミガキ調整が施される。胎土は砂礫を含みやや密。焼成は比較的良好。回転糸切りと思われるが摩滅のためはっきりしない。105は推定口径16.5cm、推定底径6.2cm、器高4.9cmを計測する。ロクロ成形で外面にはぶい黄褐色、内面は黒色処理されミガキ調整が施される。胎土はやや密で焼成は比較的良好である。外面底部には回転糸切り痕が残る。106は推定口径13.7cm、底径5.0cm、器高4.6cmを計測する。ロクロ成形され外面にはぶい黄褐色、内面は黒色処理されミガキ調整が施される。胎土は緻密で焼成はやや悪い。外面底部は切り離しの後ケズリ調整が施される。



第67図 土坑跡 (5)

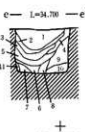


X=100.407
Y=28.639 +

- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
- 2 10YR5/6 黄褐色 粘性なし 締まり密
- 3 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
- 4 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まりやや粗

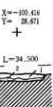
- 砂質土
- 6 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まりやや密
 - 7 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まりやや密
 - 8 10YR4/6 褐色 粘性中 締まりやや密
 - 9 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まりやや密
 - 10 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり中
 - 11 10YR4/4 褐色 粘性中 締まりやや密
 - 12 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり中
 - 13 10YR4/6 暗褐色 粘性中 締まりやや密
 - 14 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まりやや密
 - 15 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土をまばらに含む
 - 16 10YR3/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
褐色土をまばらに含む
 - 17 10YR5/8 黄褐色 粘性小 締まりやや粗
 - 18 10YR4/6 褐色 粘性中 締まりやや粗

X=100.408
Y=28.688 +



X=100.419
Y=28.700 +

- 1 10YR3/2 暗褐色 粘性小 締まり密
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
- 4 10YR5/6 明黄褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 6 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
- 7 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 8 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
- 9 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 10 10YR5/8 黄褐色 粘性小 締まり密
- 11 10YR5/6 明黄褐色 粘性小 締まり密 地山



X=100.416
Y=28.671 +

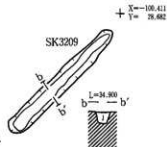
- 1 10YR3/2 黒褐色 粘性なし 締まり密
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
暗褐色土を含む



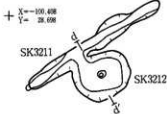
X=100.414
Y=28.703 +

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土粒をまばらに含む

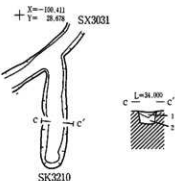
第68図 土坑跡(6)



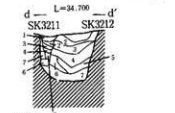
- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密



- SK3211
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まり密
 - 2 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まり密
 - 3 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり密
 - 4 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
 - 5 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
 - 6 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
 - 7 10YR4/6 褐色 粘性なし 締まり密(地山)

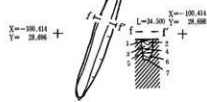


- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
- 2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密

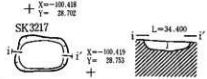


- SK3212
- 1 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
 - 2 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
 - 3 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まり密
 - 4 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
 - 5 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
 - 6 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
褐色土ブロックを少量含む
 - 7 10YR4/4 褐色 粘性中 締まり密

SK3214



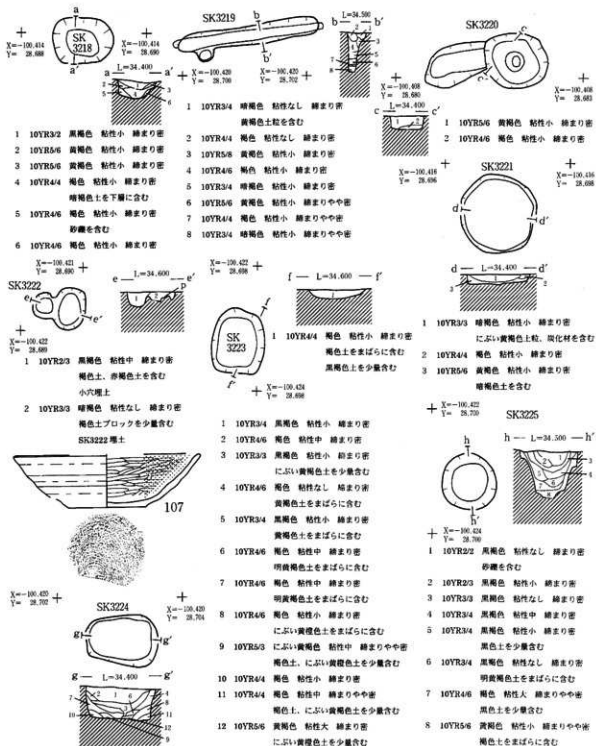
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性なし 締まり密
- 2 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締まり密
- 3 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
- 4 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
- 5 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
- 6 10YR3/2 暗褐色 粘性小 締まり密
- 7 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
褐色土粒を含む



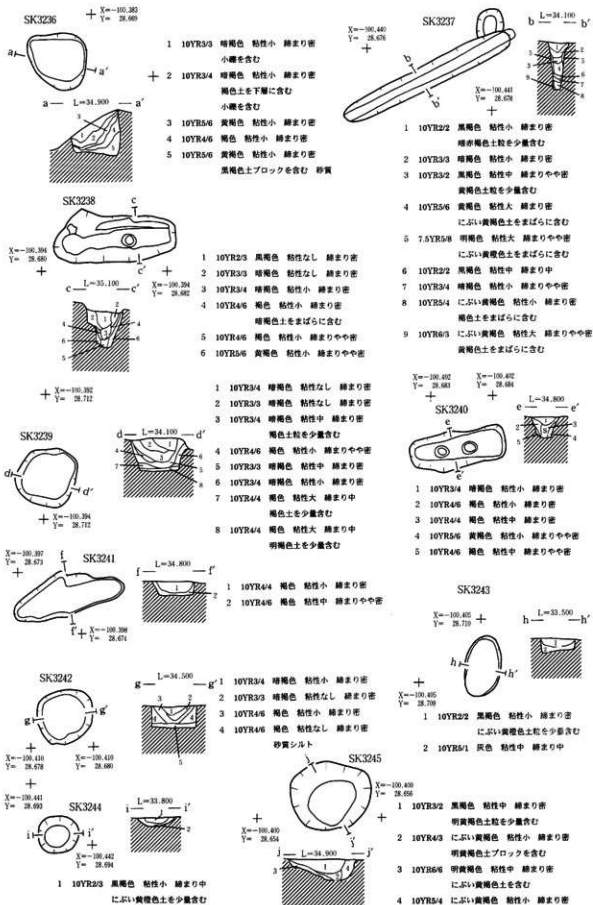
- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
明黄褐色土粒をまばらに含む

SK3222土坑 (第69図 写真図版7)

西側を小穴によって壊されている隅丸長形状の土坑跡である。長軸は概ね南北方向に0.68m、短軸は計測できるところで0.44m、検出面からの深さは0.14mを計測する。埋土は暗褐色土の単層で褐色土ブロックの混入が観察できる。底面はフラットではない。遺物は土師器の坏 (107) が出土している。推定口径14.2cm、底径6.2cm、器高4.2cmを計測する。ロクロ成形され外面はにぶい黄褐色、内面は黒色処理されミガキ調整が施される。胎土はやや緻密で砂礫の混入が観察できる。焼成はそれほど悪くはない。回転系切り無調整である。



第69図 土坑跡 (7)



第71図 土坑跡(9)

表-1 土坑一覽表

※長軸・短軸・深さの単位はm

遺構番号	平面形	長軸	短軸	深さ	遺物	底面小穴	その他・備考
3167	卵形	0.94	0.81	0.44	無し	無し	縄文・陥し穴か
3168	円形?			0.73	無し	無し	縄文・陥し穴か
3169	不整形円形	直径0.58m		0.22	土師器・坏	無し	古代
3170	円形	直径1.1m		0.25	無し	無し	
3171	細長形	2.94	0.33	0.41	無し	無し	
3172	楕円形	1.21	1.05	0.75	無し	有り・2	縄文・陥し穴か
3173	細長形	2.00	0.22	0.68	石器	無し	縄文・陥し穴か
3174	細長形	2.09	0.34	0.69	無し	無し	
3175	隅丸長方形	1.99	1.01	0.83	無し	有り・2	縄文・陥し穴か
3177	楕円形	2.27	0.29	0.64	無し	無し	縄文・陥し穴か
3178	細長形	1.97	0.34	0.76	無し	無し	縄文・陥し穴か
3179	細長形	2.85	0.55	0.74	無し	無し	縄文・陥し穴か
3180	不整形	1.22	0.64	0.13	無し	無し	
3181	隅丸長方形	1.27	1.05	0.29	無し	無し	
3182	不整形	—	1.23	0.21	無し	無し	
3183	不整形	1.34	0.89	0.24	無し	無し	
3184	不整形	1.03	0.88	0.20	無し	無し	
3185	不明	南北0.97m		0.48	無し	無し	
3186	卵形	1.08	0.99	0.61	無し	無し	
3187	細長形	2.58	0.37	0.39	無し	無し	縄文・陥し穴か
3188	隅丸長方形	2.13	1.04	0.88	無し	有り・2	縄文・陥し穴か
3189	細長形	3.50	1.21	0.44	無し	無し	縄文・陥し穴か
3190	細長形	2.31	0.17	0.33	無し	無し	縄文・陥し穴か
3192	楕円形	1.41	1.11	0.18	無し	無し	
3193	細長形	2.26	0.18	0.44	無し	無し	縄文・陥し穴か
3194	楕円形	0.8	0.57	0.16	無し	無し	
3195	隅丸長方形	0.94	0.75	0.62	無し	有り・1	縄文・陥し穴か
3196	隅丸方形	1辺0.90m		0.60	無し	無し	縄文・陥し穴か
3197	円形	直径0.94m		0.78	無し	無し	縄文・陥し穴か
3198	不整形円形	直径0.94m		0.68	無し	無し	
3199	隅丸長方形	1.83	1.17	0.69	無し	有り・2	縄文・陥し穴か
3200-①	楕円形	1.00	0.90	0.42	無し	無し	SK3200-②と重複
3200-②	円形?	直径0.90m		0.7	無し	有り・1	縄文・陥し穴か
3201	細長形	3.41	0.49	0.62	無し	無し	縄文・陥し穴か
3202	卵形	1.39	1.10	1.04	無し	無し	
3203	不整形	0.98	0.93	0.24	無し	無し	埋土に焼土粒含む
3204	楕円形	1.70	0.91	0.23	土師器・坏	無し	古代

遺構番号	平面形	長軸	短軸	深さ	遺物	底面小穴	その他・備考
3205	細長形	4.04	0.45	0.78	無し	無し	縄文・陥し穴か
3206	円形	直径1.04m	0.78	無し	無し	無し	縄文・陥し穴か
3207	円形?	直径1.04m	0.84	無し	無し	無し	縄文・陥し穴か
3208	隅丸長方形	1.03	0.87	0.81	無し	有り・1	縄文・陥し穴か
3209	細長形	2.28	0.28	0.17	無し	無し	縄文・陥し穴か
3210	細長形	—	0.43	0.19	無し	無し	縄文・陥し穴か
3211	細長形	2.47	0.19	0.49	無し	無し	縄文・陥し穴か
3212	隅丸長方形	0.94	0.71	0.75	無し	有り・1	縄文・陥し穴か
3213	隅丸長方形	1.23	0.94	0.71	無し	無し	縄文・陥し穴か
3214	細長形	2.61	0.29	0.30	無し	無し	縄文・陥し穴か
3215	隅丸長方形	0.81	0.59	0.11	無し	無し	
3216	隅丸長方形	0.89	0.58	0.17	無し	無し	
3217	隅丸長方形	0.75	0.54	0.15	無し	無し	
3218	隅丸長方形	0.98	0.73	0.17	無し	無し	
3219	細長形	2.27	0.28	0.62	無し	無し	縄文・陥し穴か
3220	隅丸長方形	1辺0.94m	0.2	無し	無し	有り・1	
3221	楕円形	1.24	1.16	0.13	無し	無し	埋土に炭化材混入
3222	隅丸長方形	0.68	0.44	0.14	土師器・坏	無し	古代
3223	隅丸長方形	1.04	0.83	0.15	無し	無し	
3224	隅丸長方形	1.16	0.80	0.50	無し	無し	縄文・陥し穴か
3225	卵形	0.90	0.84	0.71	無し	無し	縄文・陥し穴か
3226	円形	直径1.13m	0.83	無し	無し	無し	縄文・陥し穴か
3227	隅丸長方形	1.33	1.08	0.20	無し	無し	
3228	楕円形	0.82	0.63	0.14	無し	無し	
3229	円形	直径0.87m	0.54	無し	無し	有り・1	縄文・陥し穴か
3231	隅丸長方形	0.94	0.67	0.17	無し	無し	
3232	円形	直径0.81m	1.10	無し	無し	無し	
3233	隅丸長方形	1辺0.70m	0.13	無し	無し	無し	
3234	隅丸長方形	0.83	0.51	0.11	無し	無し	
3235	楕円形	0.77	0.69	0.21	無し	無し	
3236	不整形	0.94	0.91	0.73	無し	無し	縄文・陥し穴か
3237	細長形	2.95	0.37	0.76	無し	無し	縄文・陥し穴か
3238	隅丸長方形	1.98	0.73	0.58	無し	有り・1	
3239	隅丸長方形	0.97	0.87	0.53	無し	無し	縄文・陥し穴か
3240	隅丸長方形	1.54	0.54	0.33	無し	有り・2	
3241	不整形	0.81	0.61	0.21	無し	無し	
3242	隅丸長方形	1辺0.88m	0.23	無し	無し	無し	
3243	楕円形	0.97	0.58	0.18	無し	無し	
3244	隅丸長方形	0.64	0.58	0.13	無し	無し	
3245	不整形	1.21	1.11	0.34	無し	無し	

4 掘立柱建物跡 (第72～76図)

4棟検出した。うち1棟は平成11年度に調査したSB02掘立柱建物につながるものと考えられることから、SB02掘立柱建物として報告する。

SB02掘立柱建物 (第73図)

調査区北西で検出した。桁行き15.7m、梁間4.6mと南北に長い掘立柱建物である。柱間寸法は最短で1.7m、最長で2.65mと一定していない。使用した柱穴は24個で柱あたりが確認できるものもある。遺物は出土していない。

SB3009掘立柱建物 (第74図)

調査区北ほぼ中央で検出した。桁行き8.25m、梁間3.9mで南北に長い掘立柱建物である。柱間寸法は様々である。使用した柱穴は29個で、柱あたりが確認できるものもある。SE3012井戸跡と重複し、SB3009掘立柱建物跡が古い。遺物は出土していない。

SB3010掘立柱建物跡 (第75図)

SB3009掘立柱建物跡と重複して検出した。桁行き7.7m、梁間4.3mで東西に長い掘立柱建物跡である。使用した柱穴は19個で、柱あたりが確認できるものもある。柱穴の重複関係から、SB3009掘立柱建物跡よりも古い。遺物は出土していない。

SB3011掘立柱建物跡 (第76図)

調査区北、東側の段丘縁で検出した。桁行き4.7m、梁間2.8mで東西に長い掘立柱建物跡である。使用した柱穴は13個で柱あたりが確認できるものはP3148柱穴のみであった。柱間寸法は一定していない。遺物は出土していない。

SB3012掘立柱建物跡 (第76図)

SB3011掘立柱建物跡の南西で検出した。桁行き5.2m、梁間3.9mで南北に長い掘立柱建物跡である。使用した柱穴は11個で、柱あたりが確認できるものもある。柱間寸法は一定していない。遺物は出土していない。

5 井戸跡 (第77、78図)

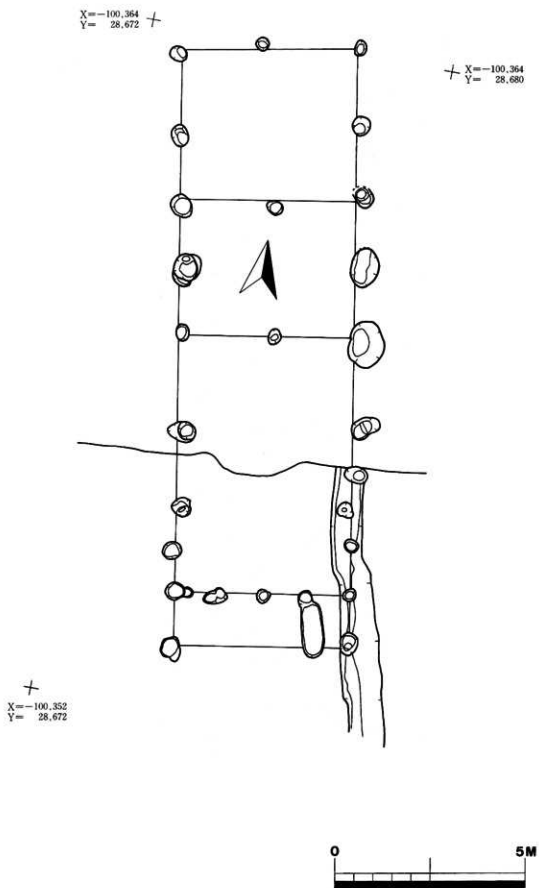
6基確認した。他の土坑と比較して検出面から底面までが深いもの、現時点で湧水が確認できるものすべてを井戸跡として登録している。

SE3011井戸跡 (第77図 写真図版85)

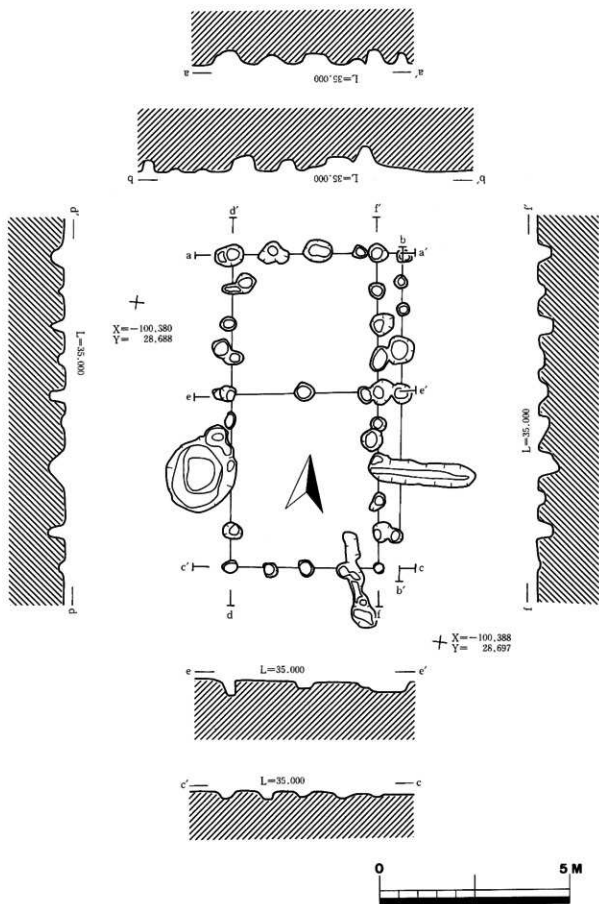
長軸1.81m、短軸1.57m、検出面からの深さ2.37mを計測する、開口部楕円形状で素掘りの井戸跡である。埋土は10層ほどで構成されるが、2層から5層までには拳大ほどの礫が多く混入する。下層はグライ化している。遺物は陶磁器の皿の破片が出土しているが、小片のため詳細はわからない。また、実測図、写真等も計測してない。

SE3012井戸跡 (第77図 写真図版85)

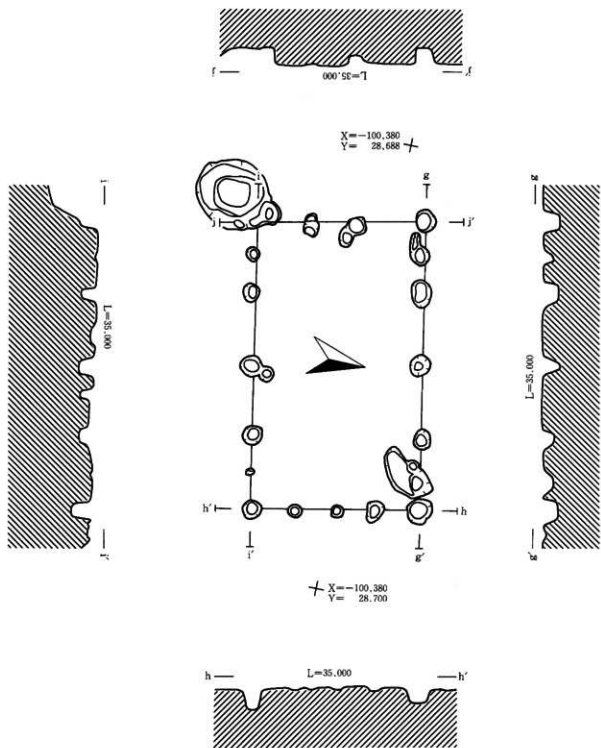
長軸2.0m、短軸1.7m、検出面からの深さ2.7mを計測する、開口部楕円形状で素掘りの井戸跡である。SB3009掘立柱建物跡を構成する柱穴と重複し、SE3012井戸跡のほうが新しい。埋土は8層



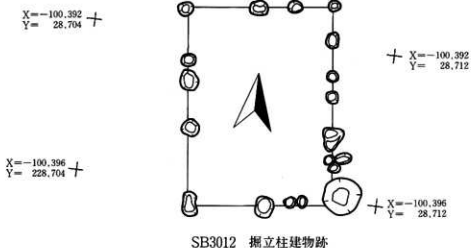
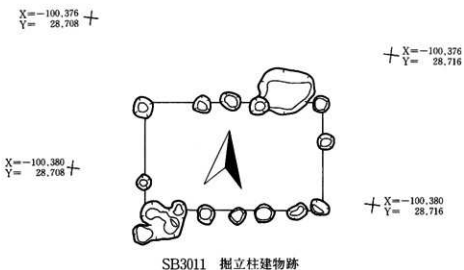
第73圖 SB02掘立柱建物跡



第74圖 SB3009掘立柱建物跡



第75圖 SB3010掘立柱建物跡

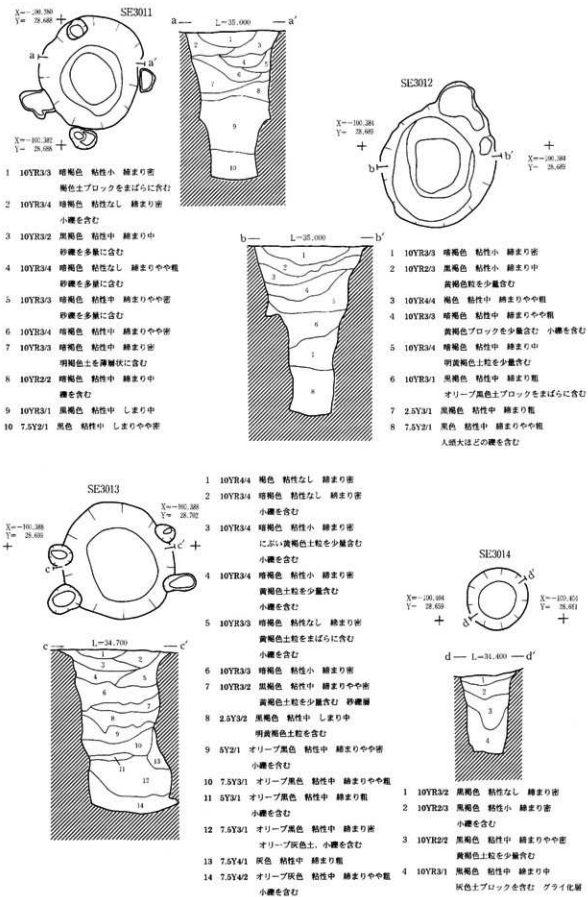


第76図 SB3011・3012掘立柱建物跡

で構成され、断面図4層中には拳大ほどの礫が、最下層の8層中には人頭大ほどの礫が混入する。遺物は18世紀から19世紀頃の陶磁器が出土している。実測図、写真等は掲載していない。

SE3013井戸跡 (第77図 写真図版85)

長軸1.92m、短軸1.79mの開口部の平面形が楕円形状で、素掘りの井戸跡である。検出面からの深さは約2.6mほどを計測する。埋土は14層で構成され、そのほとんどの層が、小礫が混入する人為的の堆積である。遺物は陶磁器片が出土しているが、小片であることから、実測図、写真等は掲載していない。



第77図 井戸跡(1)

SE3014 井戸跡 (第77図 写真図版86)

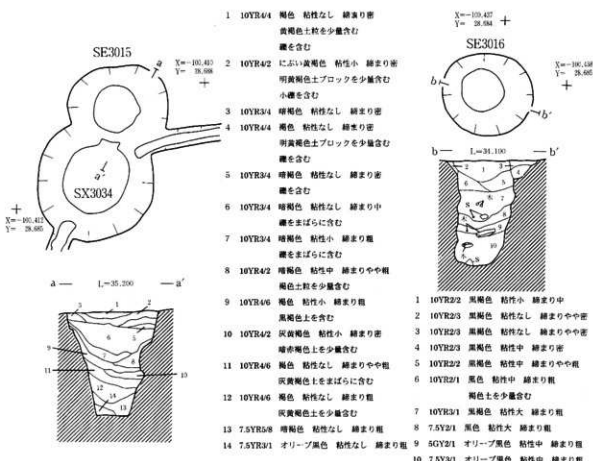
開口部が直径0.96mほどで、平面円形状の素掘りの井戸跡である。検出面からの深さは1.54mを計測する。埋土は4層から構成されるが、黒褐色土が主体で、一部(図面2層中)に少量の小礫を含むもの、その量は他の井戸跡と比較して極めて少ない。遺物が出土していないので時期まではわからないが、他の井戸跡と異なる時期である可能性がある。

SE3015 井戸跡 (第78図 写真図版86)

開口部の長軸が1.6m、短軸1.1mを計測する、平面楕円形状の素掘りの井戸跡である。検出面からの深さは1.6mを計測する。SX3034遺構と重複し、SE3015井戸跡の方が新しい。埋土は14層まで分層できるが、上層から中層(図面上1~7層)までは礫の混入が観察できる。遺物は出土していない。

SE3016 井戸跡 (第78図 写真図版86)

開口部の長軸1.48m、短軸1.34mを計測する平面卵形上の素掘りの井戸跡である。検出面からの深さは1.64mを計測する。他の遺構と重複するようであるが、SE3016井戸跡によってほとんどが壊されているため、詳細を知ることができない。SE3016井戸跡の埋土は7層で構成され、礫の混入は中層(図面上7層中)に少量確認されるのみで、他の層にはほとんど観察できない。ただし、中層から下層にかけて(図面上7層以下)木材、または木片が多く混入する。他の遺物は出土していないが、木材等の出土状況から、近世以降の井戸跡である可能性が高い。



第78図 井戸跡(2)



第79図 溝跡 (1)

6 溝跡 (第79、80図 写真図版87、88)

登録したものは7条である。調査区中央にも溝が走っているが、塩化ビニールパイプが出土したことから、ここでは触れないこととする。

SD3013溝跡

調査区中央やや西寄り、SX3031、3032馬蹄形状周溝跡のすぐ西に検出した。SX3032馬蹄形状周溝と平行して曲線を描き、そのまま西へ延びて行く。総延長は10.6mほどで、底面はU字状である。埋土は黒褐色土の単層で、明黄褐色土粒が混入する。SD3013溝跡の西端は、過去の削平により破壊されている。検出面からの深さは15cmほどを計測し、遺物は出土していない。

SD3014溝跡

SD3013溝跡の西側で検出した。標高34mの等高線に平行してのびる。長さ11.3m、幅1.3m前後、検出面からの深さ30cm前後を計測する。底面はフラットである。埋土は最下層に黒色土が堆積し、その上層は3層に分層できるものの黒褐色土が堆積する。遺物は有孔自然礫が(108)出土している。長軸4.4cm、短軸2.9cm、最大厚0.7cm、重量15.14gを計測する。ほぼ中央に穿孔されているが、人為的な穿孔かわからない。

SD3015溝跡

SD3014溝跡の南東に検出した。SD3014溝跡同様、標高34mの等高線に平行してのびる。長さ7.8m、幅0.43m、検出面からの深さ10cm前後を計測する。底面は比較的フラットである。埋土は黒褐色土の単層で、明黄褐色土を少量含む。遺物は出土していない。

SD3016溝跡

SD3015溝跡の南東に検出した。SD3014、3015溝跡同様、標高34mの等高線に平行してのびる。長さ4.6m、幅0.77m前後、検出面からの深さ10cmを計測し、底面はフラットである。埋土は上層に黒褐色土、下層に褐色土を少量含んだ暗褐色土が堆積する。上層と下層の境目付近には礫の混入が見られる。遺物は出土していない。

SD3017溝跡

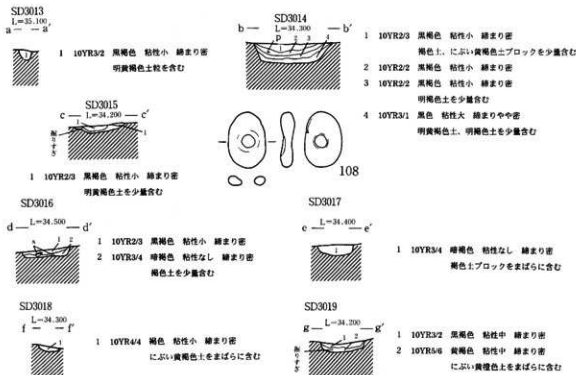
SD3016溝跡の南東に検出した。SD3014、3015、3016溝跡同様、標高34mの等高線に平行してのびる。長さ3.5m、幅0.53m前後、検出面からの深さ12cm前後を計測する。埋土は暗褐色土の単層で、褐色土ブロックをまばらに含んでいる。遺物は出土していない。

SD3018溝跡

調査区南側で検出した。ほぼ東西にのびる溝跡である。長さ約26m、幅34cm前後、検出面からの深さ10cm前後を計測する。埋土は褐色土の単層で、にぶい黄褐色土がまばらに混入する。遺物は出土していない。

SD3019溝跡

SD3014溝跡の西側に検出した。長さ3.6m、幅0.70m前後、検出面からの深さ12cm前後である。埋土は上層に黒褐色土、下層ににぶい黄褐色土をまばらに含む黄褐色土が堆積する。遺物は出土して



第80図 溝跡(2)

いない。

7 馬蹄形状周溝 (第81～83図 写真図版89～91)

5基登録した。馬蹄形状からはやや離れたものもあるが、便宜上、ここで報告する。

SX3027 馬蹄形状周溝 (第81図 写真図版89、91)

調査区西側で検出した。SX3028馬蹄形状周溝と重複し、SX3027馬蹄形状周溝が新しい。直径約6.3mの円の円周南側1/3程度が途切れる周溝である。溝の幅は12cm前後、検出面からの深さは22cm前後を計測する。埋土は部分によって異なるが、黒褐色土、または暗褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

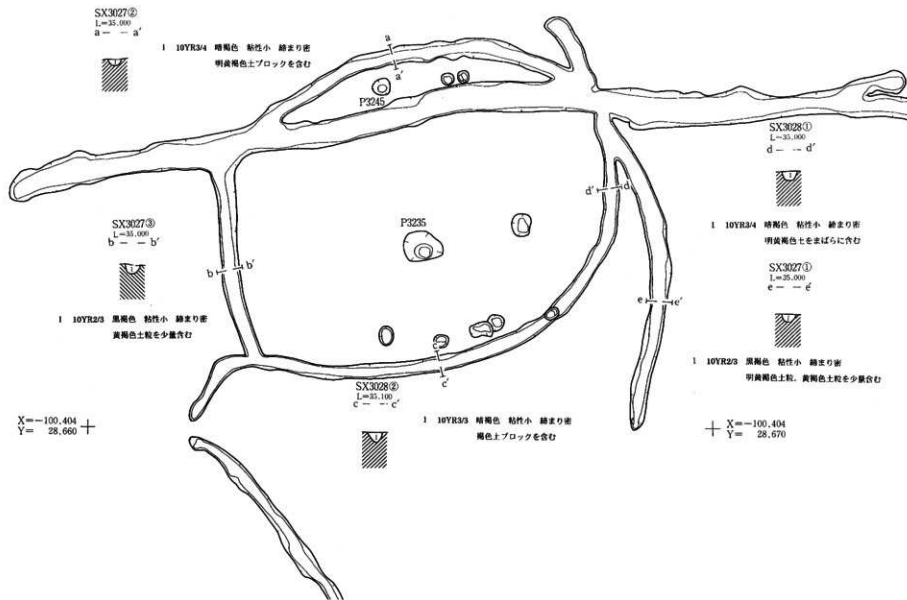
SX3028 馬蹄形状周溝 (第81図 写真図版89、91)

調査区西側で検出した。SX3027馬蹄形状周溝と重複し、SX3028馬蹄形状周溝が古い。やや歪むが、直径7.12mほどの円の円周北北西半分ほどが途切れる周溝である。溝の幅は22cm前後で、検出面からの深さは12～16cmほどである。埋土は暗褐色土の単層で、一部に褐色土ブロックや明黄褐色土が混入する。遺物は出土していない。

SX3031 馬蹄形状周溝 (第82図 写真図版90、91)

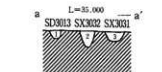
調査区中央で検出した。SX3032馬蹄形状周溝と重複し、SX3031馬蹄形状周溝のほうが新しい。やや歪むものの、直径7.6mの円の円周西側約半分ほどが途切れる周溝である。溝の幅は30～40cm

第81図 馬蹄形状周溝 (1)



第82図 馬頭形状馬溝 (2)

X = -100.406
Y = 28.670



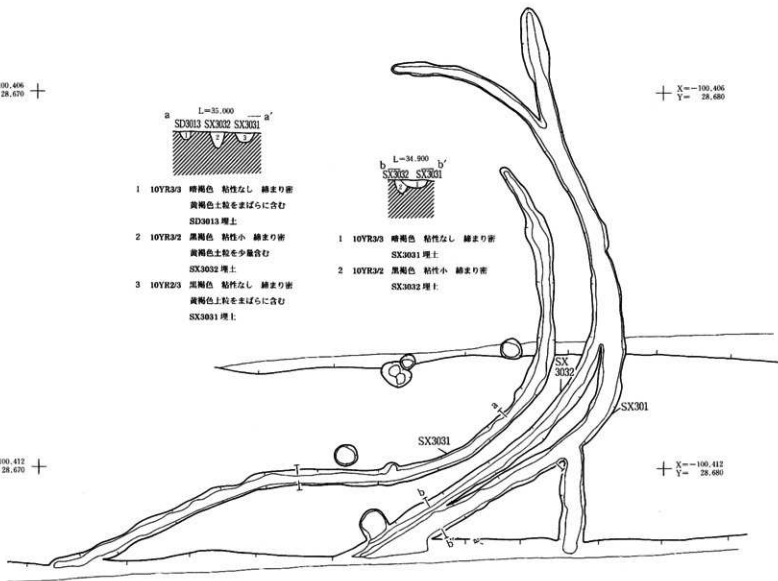
- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土粒をまばらに含む
SD3013 埋土
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土粒を少量含む
SX3032 埋土
- 3 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密
黄褐色土粒をまばらに含む
SX3031 埋土

X = -100.406
Y = 28.680



- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密
SX3031 埋土
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性小 締まり密
SX3032 埋土

X = -100.412
Y = 28.670



X = -100.412
Y = 28.680

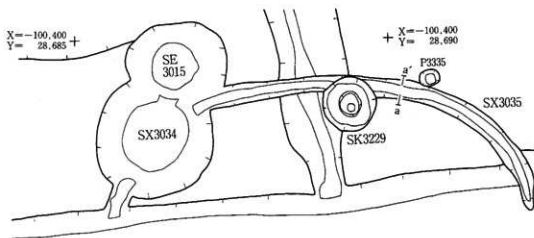
ほどで、検出面からの深さは12~28cmほどである。埋土は部分によって異なるが、暗褐色土、または黒褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

SX3032 馬蹄形状周溝 (第82図 写真図版90、91)

調査区ほぼ中央で検出した。SX3031馬蹄形状周溝と重複し、SX3032馬蹄形状周溝が古い。ほぼ南北に5.4mほどを計測し、南端から南西側に折れ5.2mほどのびる。溝の幅は30~40cm、検出面からの深さは12~24cmを計測する。埋土は黒褐色土の単層で、部分によっては黄褐色土粒の混入がみられる。遺物は出土していない。

SX3035 馬蹄形状周溝 (第83図 写真図版90、91)

SX3031、3032馬蹄形状周溝の南東で検出した。南側は後世の掘削によって削平されている。SE3015井戸跡、SX3034遺構と重複し、両遺構よりもSX3035馬蹄形状周溝が新しい。推定直径約7mの円の南側円周の一部と思われる。溝の幅は28cm前後、検出面からの深さは24cm前後を計測する。埋土は黒褐色土で、混入土の違いから3層に分層できる。遺物は削搔器と思われる石器(109)が出土している。長軸3.7cm、幅2.3cm、最高厚0.95cm、重量8.95gを計測する。



SX3035

L=34.800

a - - a'



- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まり密
黄褐色土粒をまばらに含む
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘性小 締まり密
褐色土粒をまばらに含む
- 3 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まり密
褐色土粒を含む



第83図 馬蹄形状周溝(3)

8 その他不明遺構 (第84～86図 写真図版92～96)

時期、性格がつかめなかった遺構である。

SX3018遺構 (第84図 写真図版92)

調査区の北側で検出した。北側はSX3023遺構と重複し破壊されている。SX3018遺構が古い。調査できた部分で長軸約2.0m、短軸54～72cmを計測する薄状の遺構である。長軸中ほどでは少しくびれる。検出面からの深さは24cm前後で比較的フラットに近い。埋土上層に暗褐色土、下層に黄褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

SX3019遺構 (第84図 写真図版92)

直径約1mほどを計測するくずれた円形状の遺構で、南側はほぼ直線的である。検出面からの深さは18cmほどで、底面はフラットである。埋土は褐色土をまばらに含んだ暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

SX3020遺構 (第84図 写真図版92)

長軸約1.50m、短軸1.24mの平面不整形な遺構である。検出面からの深さは46cm前後を計測し、底面には凹凸が目立つ。埋土は明黄褐色土を少量含む暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

SX3021遺構 (第84図 写真図版92)

調査区北側、調査区境で検出した。SX3022遺構と重複し、SX3021遺構が新しい。北側は調査区外にのびる。平成11年度と平成13年度の調査区間の未調査部分に北側の壁が立つと思われる。調査できた部分で長軸2.52m、短軸1.38m、検出面からの深さ17cm前後を計測する。変面形はやや崩れた長方形状で、底面は比較的フラットである。埋土は黄褐色土ブロックをまばらに含んだ暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

SX3022遺構 (第84図 写真図版93)

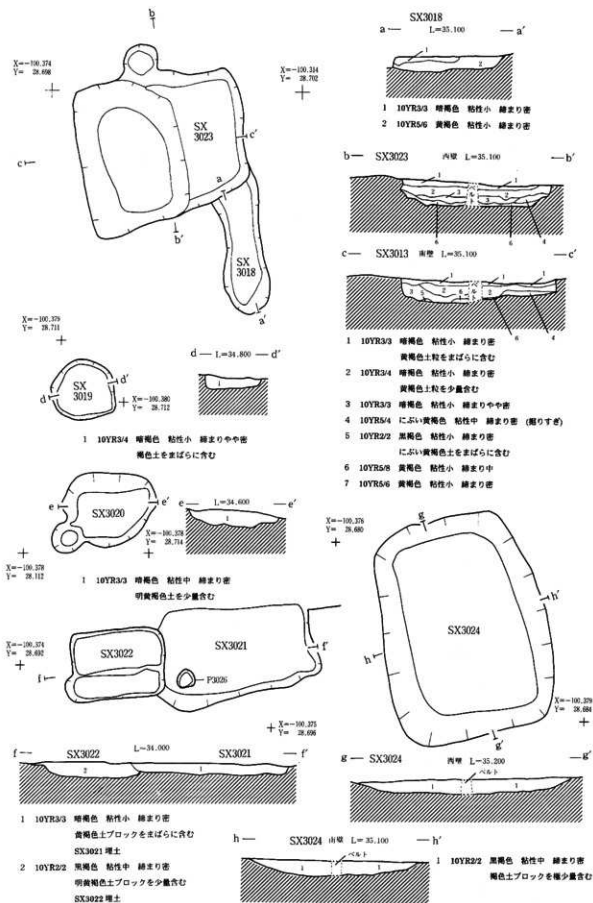
調査区北側調査区境で検出した。東側をSX3021遺構に壊されている。SX3002遺構が古い。調査できた部分で長軸約1.50m、短軸1.20m、検出面からの深さ26cm前後を計測する。平面形は長方形状で、底面には細長い2つの浅い窪みが見られる。埋土は明黄褐色土ブロックを少量含む暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

SX3023遺構 (第84図 写真図版93)

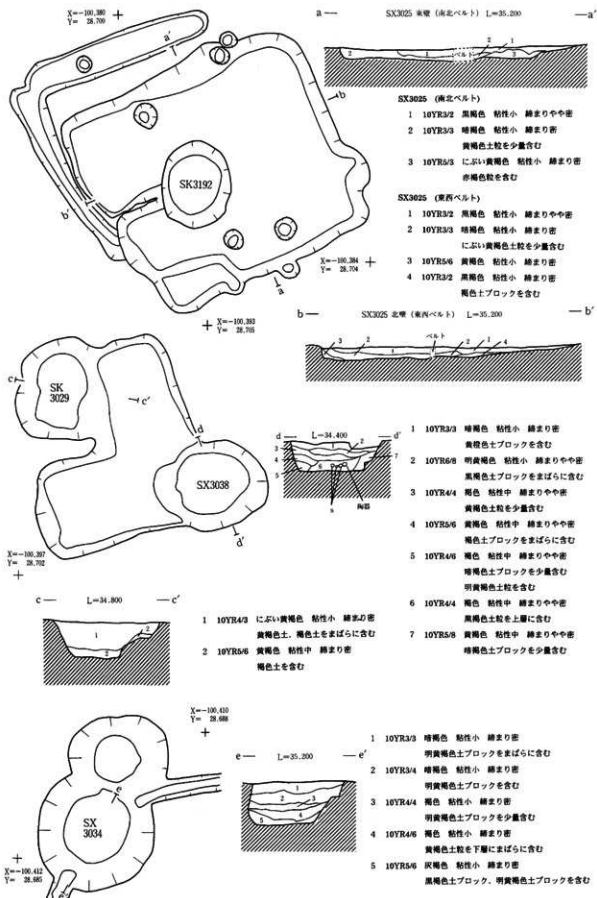
SX3018遺構の北側で検出した。SX3018遺構と重複し、SX3023遺構が新しい。長軸2.7m、短軸1.8～2.4m、検出面からの深さが東側で20cm、西側で30cmと西側が多少低くなっている。平面形は西側が短辺となる台形状である。埋土は7層から構成されている。遺物は出土していない。

SX3024遺構 (第84図 写真図版94)

長軸3.5m、短軸2.5m、検出面からの深さ24cmほどの遺構である。平面形は長方形状で、底面はフラットである。埋土は褐色土ブロックを極少量含む黒褐色土の単層である。遺物は出土していない。



第84図 不明遺構 (1)



第85図 不明遺構 (2)

SX3025遺構 (第85図 写真図版95)

調査区の西側で検出した。長軸4.1m、短軸3.5m、検出面からの深さ20cm前後を計測する遺構である。長軸は北北東-南南西を向き、南南西の壁面は中央付近で遺構内に80cmほど入り込む。埋土は6層から構成される。底面は比較的フラットである。遺物は出土していない。

SX3029遺構 (第85図 写真図版95)

長軸1.3m、短軸1.0m、検出面からの深さ70cmほどの不整形な遺構である。埋土は上層に黄褐色土、褐色土が混入するにぶい黄褐色土、下層に褐色土を含む黄褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

SX3034遺構 (第85図 写真図版96)

SE3015井戸跡に重複して検出した。SX3034遺構が古い。北側をSE3015井戸跡に破壊されているが、直径1.9mほどのやや崩れた円形状であると思われる。検出面からの深さは46cmを計測する。埋土は上層に暗褐色土、その下層に褐色土、最下層に灰褐色土が堆積する。混入土の違いから7層に分層できる。遺物は出土していない。

SX3036遺構 (第86図 写真図版96)

東側を後世の掘削により破壊された遺構である。調査できた部分で南北に1.6m、東西に0.76m、検出面からの深さ17cm前後を計測する遺構である。埋土は黒褐色土の単層が堆積する。遺物は出土していない。

SX3037遺構 (第86図 写真図版96)

不整形な遺構である。北壁で1.24m、南壁で1.84m、西壁で1.20m、東壁で40cmを計測し、検出面からの深さは30cm前後を計測する。埋土は上層に黒褐色土、その下層に褐色土、最下層に黄褐色土が堆積する。上層の黒褐色土は混入土の違いから3層に分層できる。遺物は出土していない。

SX3038遺構 (第85図 写真図版96)

長軸1.8m、短軸1.4m、検出面からの深さ44cmを計測する、楕円形状の遺構である。埋土は7層からなり、そのすべてに混入土が認められる。6層中には小礫や陶磁器の破片も混入する。遺物は6層から陶磁器の小片が出土しているが、時期等は不明である。実測、写真等は掲載していない。

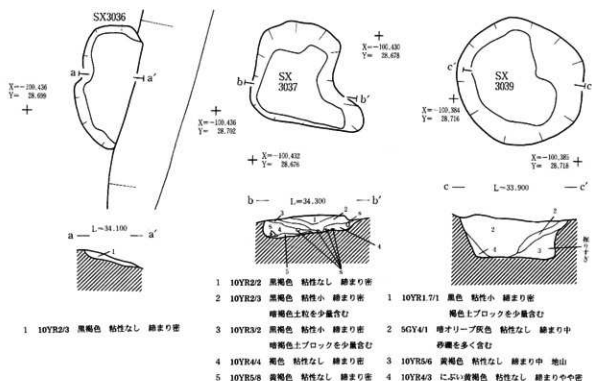
SX3039遺構 (第86図)

長軸2.1m、短軸1.94m、検出面からの深さ62cmを計測する不整形な遺構である。埋土は上層から褐色土ブロックを含む黒色土、砂礫を多く含む暗オリーブ灰色土、にぶい黄褐色土の3層から構成される。埋土断面図3層は掘り過ぎである。遺物は出土していない。

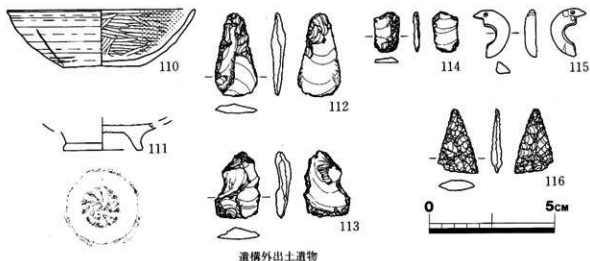
9 遺構外出土遺物 (第86図 写真図版97)

110は土師器の坏である。口径14.9cm、底径6.1cm、器高4.6cmを計測する。ロクロ成形され、外面は明黄褐色、内面は黒色処理されミガキ調整が施される。外面には鋭利な工具によって横に2本、立てに1本の線刻が施される。胎土はやや緻密で砂礫を含む。焼成はやや悪い。回転糸切りによって

切り離されるが、摩擦が激しいため拓本は掲載しない。11は土師師の高台付坏である。高台径6.2cm、現存高2.1cmを計測する。ロクロ成形で外面にはぶい黄橙色、内面は黒色処理されミガキ調整が施される。底部外面には菊花紋が見られる。112は石筥である。長軸6.7cm、幅3.4cm、最大厚0.7cm、重量19.71gを計測する。113は不定形な削搔器である。長軸5.3cm、幅3.6cm、最大厚1.9cm、重量19.09gを計測する。石筥のようにも思われるが、長軸中ほどでくびれることから不定形な削搔器として登録した。114は削搔器である。長軸3.2cm、幅2.0cm、最大厚0.4cm、重量3.68gを計測する。115は 状耳飾りの破損品である。長軸3.8cm、現存幅0.3cm、最大厚0.9cm、重量7.81gを計測する。116は石鏃である。長軸2.55cm、幅1.6cm、厚さ0.4cm、重量1.24gを計測する。



不明遺構 (3)



第86図 不明遺構 (3) 遺構外出土遺物

10 まとめ

(1) 縄文時代

陥し穴状遺構が37基検出された。開口部平面形は直径、又は1辺が1m前後の円形状に近いもの（卵形、隅丸正方形含む）が11基、隅丸長方形（楕円形含む）が10基、細長いものが15基検出した。遺物は縄文土器片の出土はなく、すべてが石器、石製品の出土であった。

(2) 古代

竪穴住居跡3棟と土坑を検出した。竪穴住居跡はほとんどが削平されており、残存状況が悪いものばかりであった。遺物を出土した土坑は3基である。この3基には埋土に炭化材粒、焼土粒が含まれていた。

(3) 掘立柱建物跡

4棟検出した。すべてにおいて性格はつかめていない。柱穴からの遺物も出土していないが、過去の調査から近世の屋敷跡に関係する掘立柱建物跡であろう。

(4) 井戸跡

6基検出した。すべて素掘りの井戸跡である。はっきりした時代はわからないが、過去の調査から埋土に多量の礫を含むものに関しては近世以降の井戸跡と推測する。それ以外のものについてはわからない。

(5) 溝跡

7条検出した。SD3014溝跡から3017溝跡までは標高34mの等高線に平行して走っている。標高34mよりも高い位置で古代、掘立柱建物跡を検出していることから両時代のどちらかに関係すると思われるが、遺物等の出土がほとんどないためはっきりしない。

(6) 馬蹄形状周溝

5基検出した。後世の掘削により作られた当時とはかなり改変されているだろう。溝の幅は12cmから40cmと比較的せまい。馬蹄形状周溝は平安時代の墳墓の可能性も指摘されているが、切り合いがあることや溝の幅が狭いことから、下植田遺跡で検出した馬蹄形状周溝は平安時代の墳墓ではないであろう。

VI 3ヶ年調査のまとめ

1 縄文時代

土坑のみ104基を確認した。形状で分類すると下記のとおりである。

- A類 1辺または直径が1.1m以下の平面形が円形または隅丸方形に近い土坑
B類 1辺または直径が1.1mを越える平面形が円形または隅丸方形に近い土坑
C類 長軸が1.3m以下で隅丸長方形または楕円形に近い土坑
D類 長軸が1.3mを越える隅丸長方形または楕円形に近い土坑
E類 細長い形状の土坑

また、底面における小穴の有無、個数により下記のように分類する。

- I類 底面に小穴が無いもの
II類 底面に小穴が1つあるもの
III類 底面に小穴が2つあるもの

上記分類を表にしたものが下記である。

	I類	II類	III類
A類	24	10	0
B類	4	7	0
C類	9	10	1
D類	10	4	9
E類	50	0	0

細長い土坑で底面に小穴がないものE-I類が50基と圧倒的に多い。次いで24基のA-I類である。ただし、この中には底面に小穴が確認できないものの、土層断面には杭状の痕跡が残るものも含まれている。III類で最も多いのがD類の底面に小穴を2つ持つものである。大きさを反映しているのだろう。A、B、C類のIII類はほとんど見られず、II類が多くなっている。B類は規模の面においてA類より大きいものの、D類と比較するとD類の短軸よりやや大きい同じ位の規模しかない。規模の関係上、小穴を2つは持てなかったのであろう。なお、D-III類にはE-III類に含まれそうなものもある。

底面に見られる小穴については、逆茂木のようなものが立てられた可能性が考えられているが、下槲田遺跡で検出した土坑の場合、直径が15cmを超えるものがあり、逆茂木としてはふとすぎるのではないかと考える。むしろ、落とした獲物の自由を奪い、かつ開口部を覆う際の簡易な支柱であったと考える。底面に小穴が確認されず、土層断面に杭状の痕跡が残るものに関しては開口部を覆う際に簡易な支えとしたのではないかと考える。

これらの土坑からは出土遺物がほとんどないため時期はほとんどわからない。遺構の重複関係（埋土の断面観察による）からは、AII（SK2095）よりもEI（SK2094）が古い。また、EI（SK3211）よりもCII（SK3222）が古いことがわかる。この重複関係をそのまま陥し穴状遺構の形態の時期変遷に当てはめることは類例が少ないことから不適当とおもわれるが、一応の新旧目安として提示したい。陥し穴状遺構に伴う遺物は石器程度あることから、具体的な時期はわからない。遺構に伴わないが、3ヶ年の調査から前期初頭頃の縄文尖底深鉢の底部片が出土していることから、該期の遺構である可能性が考えられる。

X=-100,460
Y= 28,620



X=-100,260
Y= 28,620



X=-100,460
Y= 28,720



X=-100,260
Y= 28,720



第87図 下権田遺跡全体図

縄文時代の下植田遺跡は狩場跡であったと推測する。

2 平安時代

9世紀第2四半世紀頃の集落跡と、10世紀前半の集落跡である。

9世紀第2四半世紀の下植田遺跡SI2003竪穴住居跡と、同時期の常盤小学校遺跡SI01竪穴住居跡出土土器の器種別個数比較が下記である。

	土師器坏	須恵器坏	土師ロクロ甕	土師非ロクロ甕	土師器鉢
常盤小学校遺跡	2	4	2	3	1
下植田遺跡	2	4	0	5	1

このほかの出土遺物は下記のとおりである。

常盤小学校遺跡	土師器甕底部 1	須恵器甕または鉢底部 1	不明鉄製品 1	砥石 1
下植田遺跡	土師器甕底部 2	土師器球胴甕口縁 2	須恵器蓋摘み 1	須恵系土器高台 1

※須恵系土器は下植田遺跡SI01屋外溝に伴う可能性が高いので外した

この時期の坏は、土師器・須恵器を問わずほぼ一定の法量を有し、一般集落出土の須恵器の食器群については、胆沢城の官人等が集落に向いた際に使用した器（伊藤 1997年）とされ、その量で、胆沢城との関係の強さが表れるとしている。両遺跡の場合、常盤小学校出土須恵器坏には高台付坏（碗か？）が含まれたり、下植田遺跡に須恵器蓋摘みが含まれたりと器種組成に若干の違いはあるものの、ほぼ似通った出土状況を示していることから、胆沢城との関係においてもそれほど強くもない、極普通の一般集落であったのであろう。

土師器の甕は常盤小学校遺跡ではロクロ成形された甕と非ロクロ成形の甕が混在しているが、下植田遺跡では非ロクロ成形の甕のみが出土している。非ロクロ甕を見ると、

1、 頸部が「く」の字状に外反し、胴部はやや丸みを帯びるものと、

2、 頸部から口縁部にかけて1よりも鈍角で外反し、頸部から底部までほぼ直線的にいたるものとに分類される。

1はおそらく奈良時代からの系譜を引くものであろう。2については今のところ胆沢城周辺地域で出土していないことから、外部からの搬入である可能性がある。

10世紀前半の集落に関する遺構は、SI01竪穴住居跡とSX2009遺構である。竪穴住居跡から出土した遺物は、土師器、須恵器、須恵系土器の坏と、土師器の高台付坏、土師器小型甕、長胴甕などである。また、SX2009遺構からは土師器の坏・甕、須恵器甕の口縁部、須恵系土器の耳皿、灰釉陶器の甕が出土している。この頃胆沢城では、須恵系土器坏、皿、高台皿等からなる「王朝国家的土器様式（伊藤 1997年b）」が成立し、多少器種が減じるものの、一般集落に入り込んでいたとしている。下植田遺跡でも、同じような現象が起きている。灰釉陶器の出土からも明らかであるが、この時期も胆沢城との関連があったのである。

SX2009遺構出土土師器甕には、SI01竪穴住居跡には見られない内外面ハケメ調整の甕が出土しているが、やはりこの時期の胆沢城周辺には見られない調整法である。この時期にも外部からの人、あ

るいはモノの流入があったのであろうか。

以上、下植田遺跡は9世紀第2四半世紀に集落が出現、そして途絶え、約100年後の10世紀前半頃に再び集落が営まれた。この2時期の集落は、出土遺物からも自然発生的に出現したのではなく、胆沢城の介入により成立した集落であり、途絶えた集落である。

3 近世

近世屋敷のほぼ全域を調査した。確認された掘立柱建物跡は12棟で、柱穴の重複から最低1回は建て直しがされたようである。

東側を段丘崖、北側と西側には溝を掘って区画している。南側は掘削のため連続する溝跡は検出できなかったが、SB3012掘立柱建物跡の北側に東西約21mにわたる細い溝（未登録）を検出し、また、平成11年度調査で検出したSD01南北溝も今回の調査で検出できなかったことから、SB3012掘立柱建物跡の北側にある溝を、屋敷跡南側区画溝の残存部とする。

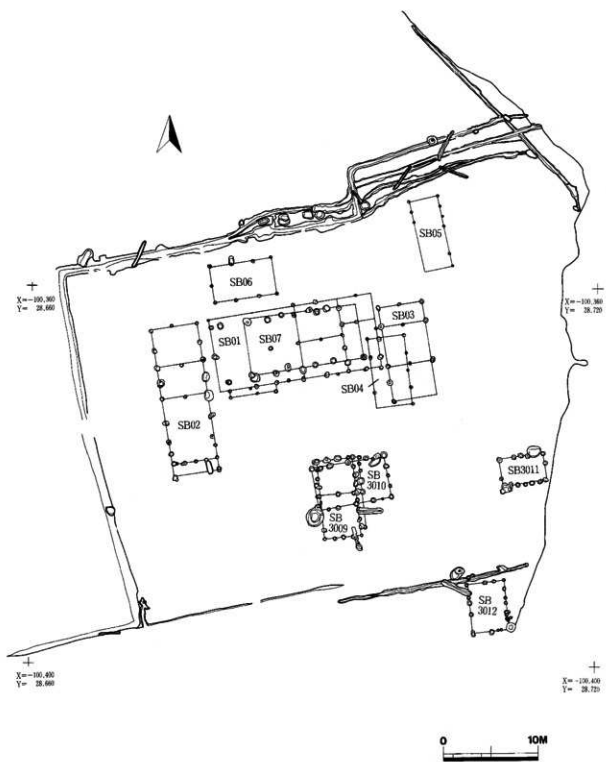
区画溝は東西約53m、南北約40mにわたって、東側を開いて屋敷を区画する。東側は段丘崖となる。区画溝内には建て変えを含め10棟の掘立柱建物跡が建てられる。母屋は区画溝内の中央やや北寄りに建てられる。母屋にも他の掘立柱建物跡の重複がある。東側の段丘崖には水場があり、その南側には井戸跡がある。区画溝内には井戸跡が5基ある。注目すべきところはSE3011井戸跡とSE3012井戸跡が並んで掘られていることである。井戸跡の作り代えなのか、2基並存していたのか今回の調査ではつかめなかった。その他の施設では性格不明な堅穴状遺構を数基検出している。平成11年度調査で検出したSX04遺構は、長軸4.5m、短軸3.2m、検出面からの深さ30cm前後のやや形が崩れた隅丸形状の遺構で、中には多数の礫と18～20世紀までの遺物が出土している。

区画溝外にも近世以降または時期不明の遺構を検出した。調査区北側には極最近まで農道あるいは作業道として使われていた道路跡、屋敷跡の北側の掘立柱建物跡、馬蹄形状の周溝、井戸跡である。井戸跡については埋土から近世以降としたものが多いが、区画溝内で見られた並んで作られる井戸跡が見られる。この意味を考えるには、今後の資料の増加を待ちたい。

「安永風土記御用書出」によると、当時の中野村に下植田屋敷の記述が見られる。これ以上の記述は見当たらないが、今回調査した屋敷跡が該当するだろう。周辺住民の方の話では、大正時代くらいまではこの地に居住していたようである。18世紀の遺物から20世紀の遺物まで出土することから、最低でも100年以上はこの地に居住したのであろう。その後は取り壊され、現在では畑となり、今後は水田として活用されるのである。

参考、引用文献

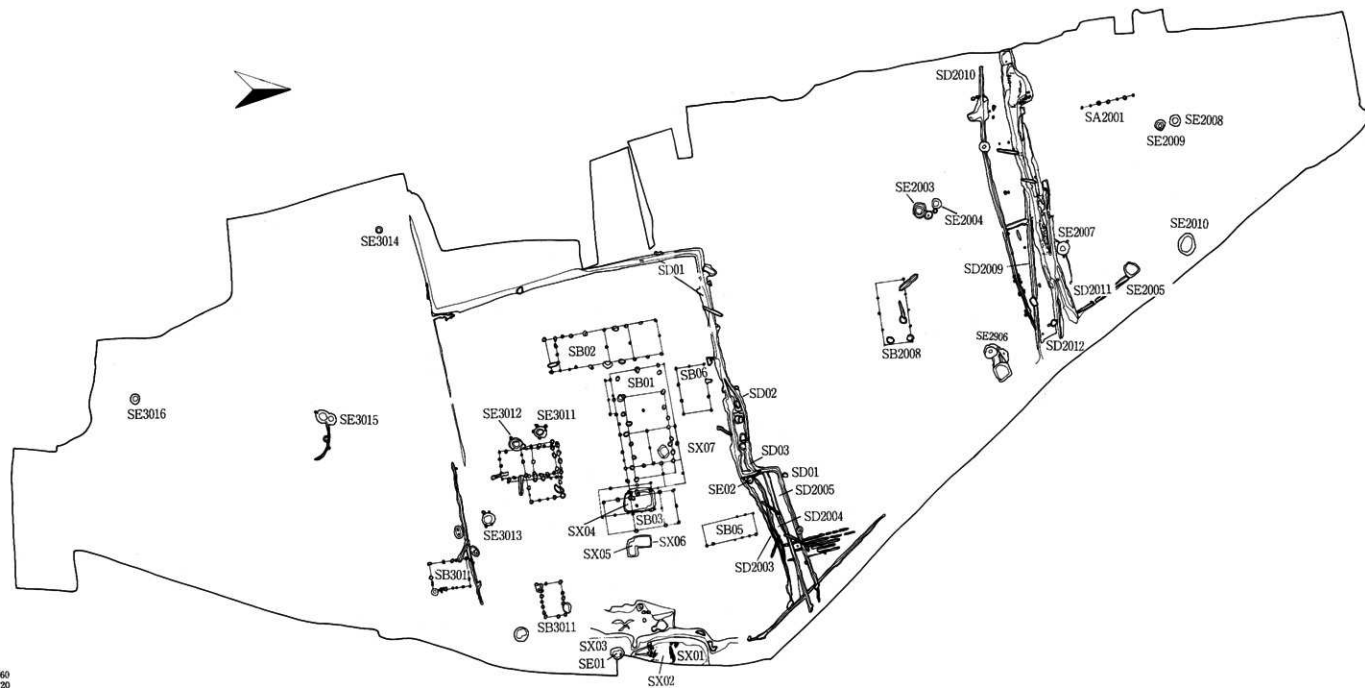
- 伊藤 博幸 1997年「律令期村落の基礎構造—胆沢城集落の平安期集落—」(岩手史学研究第80号 岩手史学会)
伊藤 博幸 1998年a「北上盆地南部」(『東北地方の古代集落』第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料集)
1998年b「後半期の集落」(『岩手考古学』第10号 岩手考古学会)
佐藤 良和 1999年「常盤小学校遺跡」(『水沢遺跡群範囲確認調査』水沢市文化財報告書第33集 平成10年度発掘調査概報 水沢市教育委員会)
佐藤 良和 2000年「下植田遺跡Ⅰ」(水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第14集 農林漁業用弾発財財源身替農道整備事業に伴う緊急発掘調査 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター)



第89図 近世屋敷図(1)

X=-100,460
Y= 28,620

X=-100,260
Y= 28,620



X=-100,260
Y= 28,720

X=-100,260
Y= 28,720

第90图 近世屋敷图(2)

土器観察表

平成12年度調査分

※()は推定径または現存高を示す

掲載番号	出土地	種別	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調		調整		その他備考
									外面	内面	外面	内面	
									1	SI2003	須恵器	坏	
2		土師器	坏	—	(6.4)	(2.5)	やや緻密	やや悪	2.5YR6/2灰黄色	7.5YR6/4にぶい橙色	ロクロ・ケズリ	不明	回転糸切り、内面黒色の処理観察されず
3		須恵器	坏	—	(7.8)	3.2	海面骨芯含む	やや悪	7.5YR6/4にぶい橙色	10YR6/4にぶい橙色	ロクロ・ケズリ	ロクロ	回転糸切り無調整
4		土師器	坏	(14.6)	—	2.7	やや粗雑	やや良	黒色処理		ロクロ		ミガキ
5		土師器	甕	(21.1)	—	(20.8)	やや緻密	やや良	10YR6/6明黄褐色	7.5YR6/6橙色	横ナデ・ハケメ		非ロクロ成形
6		土師器	甕	(18.2)	—	(6.5)	やや粗雑	やや悪	10YR7/3にぶい黄褐色	2.5Y7/2灰黄色	横ナデ・ヘラナデ?		非ロクロ成形、球脚楽か
7		土師器	甕	—	—	(7.2)	砂礫多	やや悪	7.5YR7/6橙色	7.5YR6/6橙色	ヘラケズリ	ハケメ	底部に指ナデ痕
8		土師器	甕	—	—	(5.6)	緻密	良好	7.5YR7/6橙色	10YR7/4にぶい黄褐色	ハケメ→横ナデ	ハケメ	破片実測
9		土師器	甕	—	—	(10.0)	砂礫混入	やや良	10YR6/6明黄褐色	5YR7/6橙色	ヘラケズリ	ハケメ	外面粘土塊付着
10		須恵器	甕	—	—	(2.1)	緻密	良好	10YR6/1開灰色		ロクロ		つまみ
11		須恵系土器	高台	—	(7.3)	(1.9)	緻密	良好	10YR7/4にぶい黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	ロクロ		高台部のみ
12		土師器	甕	(18.1)	—	(6.4)	砂礫多	やや良	10YR8/4浅黄褐色	7.5YR7/6橙色	ハケメ→横ナデ、ケズリ	横ナデ	非ロクロ成形
13		土師器	甕	(20.0)	—	(13.4)	やや緻密	やや良	5YR6/6橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	横ナデ・ハケメ		
14		土師器	甕	(24.3)	—	(22.9)	砂礫混入	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色	7.5YR7/6橙色	横ナデ・ケズリ	横ナデ・ハケメ	非ロクロ成形
15		土師器	甕	(21.0)	—	(6.0)	やや粗雑	やや悪	7.5YR8/6浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	横ナデ・ヘラナデ?	ヘラナデ	非ロクロ成形
16		土師器	鉢	28.0	11.7	16.4	やや粗雑、石英混入	やや良	10YR6/3にぶい黄褐色	黒色処理	タタキ→横ナデ・ケズリ	横ナデ・ミガキ	
17		須恵器	坏	(13.2)	(6.6)	4.0	砂礫、石英混入	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色		ロクロ		回転糸切り後ケズリ調整
18		須恵器	坏	(13.4)	6.6	4.5	砂礫、石英混入	やや悪	10YR7/3にぶい黄褐色		ロクロ		切り離し後底部再調整
27	SI2004	須恵系土器	坏	10.8	4.4	3.2	赤褐色粒混入	やや悪	7.5YR8/6浅黄褐色		ロクロ		回転糸切り無調整
28		土師器	坏	13.7	5.7	4.6	砂礫多、石英混入	やや良	10YR7/3にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転糸切り・底部に「十」字線刻、焼成前
29		土師器	坏	(15.2)	(6.6)	5.3	赤褐色粒混入	やや悪	10YR7/3にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ・ケズリ	ミガキ	切り離し後底部再調整
30		土師器	甕	19.0	—	(14.9)	やや粗雑	やや悪	7.5YR6/6橙色	7.5YR5/6明褐色	ロクロ・ケズリ	ロクロ	
31		土師器	甕	23.3	—	(15.2)	砂礫多	やや悪	5YR6/4にぶい黄褐色	5YR6/6橙色	横ナデ・ケズリ	横ナデ・指ナデ	
32		土師器	甕	—	(10.8)	(9.5)	やや粗雑	やや悪	7.5YR6/6橙色		ロクロ・ケズリ	ロクロ	
33		土師器	甕	(23.8)	—	(8.6)	砂礫混入	やや良	10YR8/3浅黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	ロクロ		
34		土師器	甕	—	(11.6)	(8.5)	砂礫混入	やや良	5YR6/6橙色	10YR6/6明黄褐色	ケズリ	ロクロ	
37	K2	土師器	坏	(14.4)	(6.0)	4.3	砂礫混入	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転糸切り後底部再調整
38	K2	灰釉陶器	瓶	—	—	(2.4)	緻密	良好	緑色釉施	灰白色	ロクロ		胴部片
40	SK2049	須恵器	坏	(12.2)	(6.0)	3.8	緻密	不良	10YR8/4浅黄褐色		ロクロ		回転ヘラ切り無調整・焼成不良
41	SK2050	須恵器	坏	(12.8)	(7.4)	3.3	やや緻密	不良	2.5YR7/3浅黄色	2.5YR7/3浅黄色	ロクロ		回転糸切り無調整
42	SK2064	土師器	鉢	—	—	(14.4)	やや緻密	やや悪	10YR6/3にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	
43	SK2066	須恵器	坏	(12.7)	(6.9)	4.2	石英混入	やや悪	2.5YR5/2暗灰黄色	2.5Y6/4にぶい黄色	ロクロ		回転糸切り無調整

掲載 番号	出土地	種別	機種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調		調整		その他備考	
									外面	内面	外面	内面		
44	SK2080	須 忠 器	瓶	-	(14.4)	(8.4)	緻密	良 好	10YR5/1 陶灰色		ロクロ→ケズリ	ロクロ→指ナデ	高白付・内面露付着	
45		須 忠 器	瓶	-	7.3	(1.7)	緻密	やや良	2.5YR7/1 灰白色		ロクロ		回転ヘラ切り無調整	
46	SK2081	須 忠 器	瓶	(14.0)	(6.8)	4.2	砂礫、石英混入	良 好	2.5Y6/1 灰白色		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切り無調整	
47	SK2082	土 師 器	鉢	-	-	(7.7)	やや緻密	やや悪	10YR8/3 浅黄褐色			ロクロ	胴部露付着	
48	SK2090	須 忠 器	壺	-	-	(7.1)	緻密	良 好	5Y4/1 灰色			ロクロ	頸部片	
49		須 忠 器	瓶	(13.6)	(7.8)	2.8	砂礫、石英混入	良 好	2.5Y6/1 灰白色	2.5Y5/1 灰黄色	ロクロ		回転糸切り	
50	SK2113	須 忠 器	瓶	(18.0)	-	(4.3)	緻密、砂礫混入	良 好	2.5Y7/2 灰白色			ロクロ		
51		土 師 器	壺	(16.1)	-	(5.3)	やや粗雑、砂礫混入	やや悪	5YR6/6 褐色	5YR7/6 褐色	ロクロ		小型壺か?	
52	SK2141	須 忠 器	瓶	(13.6)	(7.4)	4.2	やや緻密	やや悪	25.YR6/1 黄灰色	2.5YR6/2 灰黄色	ロクロ		回転ヘラ切り無調整	
54		須忠系土器	瓶	-	(4.5)	(2.1)	緻密	不 良	7.5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	ロクロ		器端穴れ激	
55	SK2143	土 師 器	壺	(15.0)	-	(3.4)	緻密	やや良	10YR8/4 浅黄褐色		ロクロ		ミガキ	
56		土 師 器	瓶	14.8	5.1	5.2	やや緻密	不 良	5YR6/4にぶい橙褐色	10YR6/2 灰黄褐色	ロクロ		ミガキ?	内面黒色処理剥落
57		土 師 器	瓶	(12.6)	(5.1)	4.7	やや緻密	不 良	10YR6/3にぶい黄褐色	10YR7/1 灰白色	ロクロ		ミガキ?	内面黒色処理剥落
58		土 師 器	瓶	14.8	5.1	4.7	やや緻密	やや悪	5YR6/6 褐色		ロクロ		ミガキ	回転糸切り無調整
59		土 師 器	瓶	(14.6)	-	(4.2)	緻密	やや悪	5YR7/6 褐色	5YR6/4にぶい橙褐色	ロクロ		ミガキ?	内面黒色処理剥落
60		土 師 器	瓶	14.0	5.2	4.6	砂礫、石英混入	良 好	10YR7/3にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ		ミガキ	回転糸切り無調整
61	SK2158	土 師 器	瓶	14.3	4.9	4.6	石英混入	やや良	7.5YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ		ミガキ	回転糸切り無調整
62		土 師 器	壺	-	(7.8)	(5.6)	やや粗雑、砂礫多	不 良	10YR7/4にぶい黄褐色	7.5YR7/6 褐色	ケズリ		指ナデ	底部ケズリ調整
63		土 師 器	瓶	-	(6.5)	(2.2)	やや緻密	やや良	10YR7/3にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ		ミガキ	回転糸切り無調整
64		土 師 器	高付瓶	-	(7.0)	(1.7)	緻密	やや良	10YR8/3 浅黄褐色	黒色処理	ロクロ		ミガキ	
65		土 師 器	瓶	(15.9)	(7.8)	3.8		やや良	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ		ミガキ	回転糸切り無調整
66		土 師 器	壺	-	6.0	(3.0)	やや粗雑	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ		ミガキ	底部ケズリ調整
67		土 師 器	壺	-	-	(4.9)	やや粗雑	やや悪	5YR7/6 褐色	7.5YR8/6 浅黄褐色	ケズリ		指ナデ?	小型壺か?器端穴れ激
68		土 師 器	壺	-	-	(6.8)	やや緻密	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	ロクロ		指ナデ?	
69		須 忠 器	瓶	(16.7)	-	(3.6)	やや粗雑	やや悪	2.5Y7/2 灰白色		ロクロ			
70		須 忠 器	壺	(15.0)	-	(6.0)	やや緻密	良 好	10YR6/1 陶灰色		ロクロ			
71		須 忠 器	壺	-	-	(4.9)	緻密	やや良	10YR4/1 陶灰色	10YR5.1 陶灰色	ロクロ			
72		須 忠 器	壺	-	-	(3.3)	砂礫混入	やや良	5Y4/1 灰色		ロクロ			
74	SX2009	土 師 器	瓶	-	(4.8)	(1.4)	緻密	やや良	10YR7/3にぶい黄褐色	黒色処理	ケズリ		ミガキ	底部ケズリ調整
75		土 師 器	瓶	(14.1)	6.3	4.0	緻密	良 好	7.5YR7/6 褐色	黒色処理	ロクロ・ケズリ		ミガキ	外面底部露減激
76		土 師 器	瓶	(18.0)	(8.3)	5.7	緻密	良 好	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ・ケズリ		ミガキ	
77		須忠系土器	耳皿	(10.5)	6.0	3.3	緻密	良 好	10YR7/4にぶい黄褐色		ロクロ			回転糸きり無調整
78		土 師 器	壺	(22.3)	-	(14.8)	やや緻密、砂礫混入	やや良	10YR7/6 明黄褐色	10YR8/6 黄褐色	横ナデ・ハケメ			非ロクロ成形
79		土 師 器	壺	(18.6)	-	(4.2)	やや粗雑、砂礫混入多	やや良	10YR7/6 明黄褐色		横ナデ・ハケメ			非ロクロ成形
80		土 師 器	壺	(19.1)	-	(9.8)	やや緻密、砂礫混入多	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色		ロクロ・ケズリ		ロクロ	
81		土 師 器	壺	(19.9)	-	(4.3)	緻密	良 好	10YR7/4にぶい黄褐色	10YR6/3にぶい黄褐色	ロクロ・指ナデ	ロクロ		

掲載 番号	出土地	種別	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調		調整		その他備考
									外面	内面	外面	内面	
									82		土師器 甕	—	
83		須恵器 壺	(11.4)	—	(5.9)	緻密	良好	10YR5/1褐灰色	10YR6/1褐灰色	ロクロ			
84		灰軸陶器 甕	—	—	(10.4)	緻密	良好	5Y7/2灰白色	10YR8/1オリーブ黄色	ロクロ		85と同一個体か	
85		灰軸陶器 高付壺	—	9.1	(2.8)	緻密	良好	5Y7/2灰白色	10YR8/1オリーブ黄色	ロクロ		外面底部に線刻、84と同一個体か	
86	SX2010	土師器 甕	(18.8)	—	(15.5)	やや緻密、砂礫混入多	やや良	7.5YR5/4にぶい褐色	10YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ・ケズリ	ロクロ		
87	遺構外	土師器 坏	—	6.1	(2.9)	やや緻密	やや悪	10YR8/4浅黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り無調整	
88		土師器 坏	(14.8)	—	(3.8)	緻密	良好	10YR8/3浅黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ		
89		土師器 坏	(14.1)	—	(3.3)	緻密	良好	10YR8/3浅黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ		
90		須恵系土器 坏	(12.0)	(4.5)	4.2	緻密	やや良	7.5YR6/6褐色	7.5YR8/6浅黄褐色	ロクロ		回転系切り無調整	
91		土師器 甕	(20.3)	—	(9.1)	粗雑	やや悪	10YR8/2灰白色	10YR7/4にぶい黄褐色	ロクロ			
92		土師器 甕	(19.2)	—	(3.6)	やや粗	不良		7.5YR6/6褐色	ロクロ			
93		土師器 甕	(21.3)	—	(4.0)	粗雑、砂礫混入多	不良	7.5YR7/6褐色	7.5YR8/6浅黄褐色	ロクロ			
94		土師器 甕	—	(9.0)	(4.8)	やや粗雑、砂礫混入多	やや良	10YR5/2灰黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	ケズリ	ハケメ	底部内面指爪痕、底部外面木葉痕ケズリに消される	
95		土師器 甕	—	(8.8)	(6.4)	やや粗雑	やや悪	7.5YR6/6褐色	5YR6/6褐色	ハケメ	不明	器縁覚れ、底部に木葉痕	

平成13年度調査分

掲載 番号	出土地	種別	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調		調整		その他備考
									外面	内面	外面	内面	
									96	SI3007	土師器 坏	14.9	
97		土師器 坏	(16.2)	(6.2)	4.3	緻密	良好	10YR6/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り無調整	
98	SI3008K	土師器 坏	(14.4)	(6.2)	4.8	やや粗雑	やや良	10YR6/6明黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り後ケズリ?	
99		土師器 甕?	長軸6.6短軸2.1	1.1		緻密	やや悪		黒色処理		ミガキ	内外面とも黒色処理	
100	SI3009	土師器 甕	(21.1)	—	(8.1)	やや粗雑、砂礫混入	やや悪	7.5YR6/6褐色	10YR7/6明黄褐色	ロクロ	ミガキ		
101	SK3169	土師器 坏	—	(5.2)	3.7	やや緻密	やや良	10YR6/2灰黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り無調整	
104	SK3204	土師器 坏	(14.1)	(5.9)	4.7	やや緻密、砂礫混入	良好	10YR7/6明黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	底部摩滅激、回転系切りか?	
105		土師器 坏	(16.5)	(6.2)	4.9	やや緻密	良好	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り無調整	
106		土師器 坏	(13.7)	5.0	4.6	緻密	やや悪	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り後ケズリ	
107	SK3222	土師器 坏	(14.2)	6.2	4.2	やや緻密	やや良	10YR6/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	回転系切り無調整	
110	遺構外	土師器 坏	14.9	6.1	4.6	やや緻密、砂礫混入	やや良	10YR7/6明黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	底部摩滅激、回転系切りか?・外面体部に線刻	
111		土師器 高付坏	—	6.2	(2.1)	やや緻密、砂礫混入	良好	10YR7/4にぶい黄褐色	黒色処理	ロクロ	ミガキ	肩部に菊花紋	

石製品及び土製品等観察表

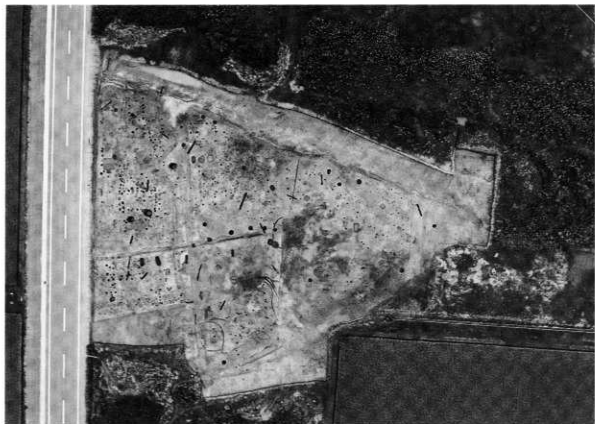
平成12年度調査分

掲載 番号	出土地	種別	器種	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他備考
19	SI2003	土製品	紡錘車	直径6.5		1.3		
20		石製品	砥石	6.7	4.1	2.0	71.66	穿孔2
21		石製品	砥石	4.6	3.6	1.4	26.32	線刻あり、破損品か
22		鉄製品	釘?	5.0	0.6	直径0.2	1.55	
23		石製品	砥石?	7.8	4.6	2.4	192.6	破損品か
24		石器	石皿?	(8.8)	(9.1)	5.6	506.87	破損品
25		石器	敲打石	11.7	8.5	6.3	876.09	磨り石の兼用石器か
26		石器	敲打石	(7.3)	(9.0)	3.2	240.10	磨り石の兼用石器か
35	SI2004	鉄器	不明	(3.0)	0.8	0.15	4.78	『L』字に屈折
36		鉄器	不明	(3.9)	0.4	0.5	9.90	『L』字に屈折
39	SK2049	鉄器	不明	(4.6)	3.0	0.2	18.83	
53	SK2134	石器	削搔器	4.4	3.0	1.5	14.94	
73	SK2163	石器	削搔器	7.6	3.8	0.95		
96	遺構外	土製品	土鏝	4.5	1.85	1.85		
97		土製品	土鏝	3.8	1.6	1.6		
98		土製品	土鏝	3.4	1.65	1.65		

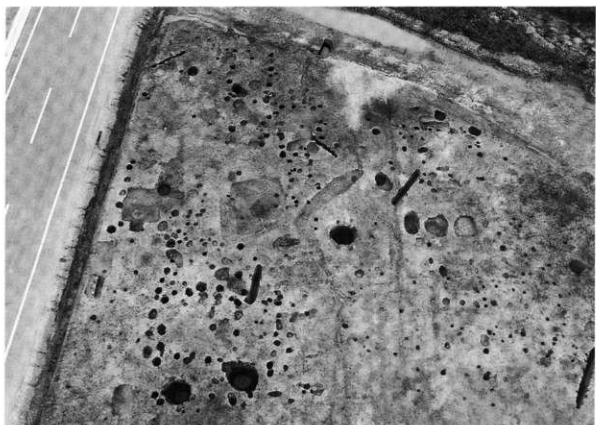
平成13年度調査分

掲載 番号	出土地	種別	器種	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	その他備考
102	SK3170	石器	削搔器	5.4	3.5	1.3	27.6	
103	SK3173	石器	石匙	4.9	1.65	0.5	4.43	
108	SD3014	碟	有孔自然碟	4.4	2.9	0.7	15.14	
109	SX3035	石器	削搔器	3.7	2.3	0.95	8.95	
112	遺構外	石器	削搔器	6.7	3.4	0.7	19.71	
113		石器	削搔器	5.3	3.6	0.9	19.09	
114		石器	削搔器	3.2	2	0.4	3.68	
115		石製品	状耳飾り	3.8	(2.9)	0.9	7.81	破損品
116		石器	石鏝	2.55	1.6	0.4	1.24	破損品

写真図版

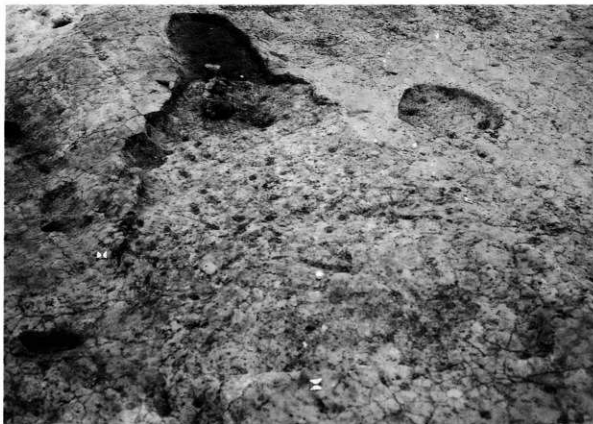


調査区全景



調査区近景

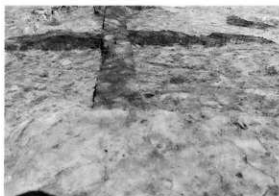
写真図版60 遺跡全景



S I 3007 全景



S I 3007 埋土断面



S I 3007 埋土断面

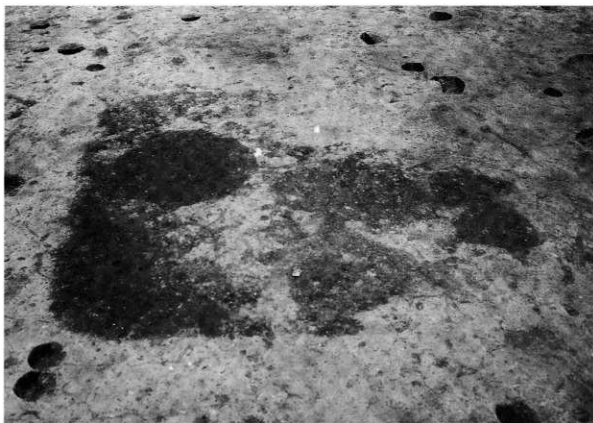


遺物出土状況 ①



遺物出土状況 ②

写真図版61 S I 3007 竪穴住居跡



S I 3008 検出状況

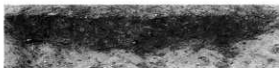


S I 3008 全景

写真図版62 S I 3008竪穴住居跡(1)



K 1~3 全景



K 1埋土断面



K 4埋土断面



K 2埋土断面

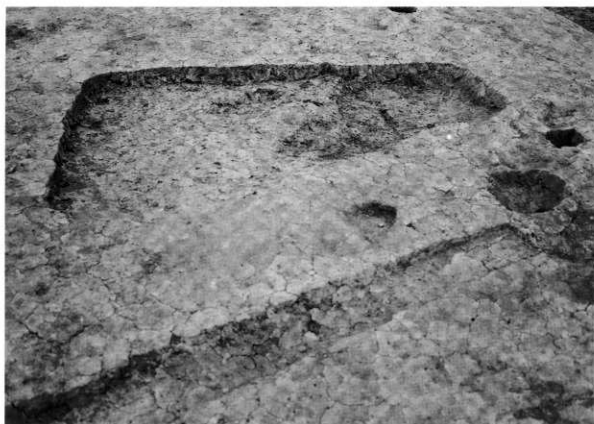


K 5 全景



K 5埋土断面

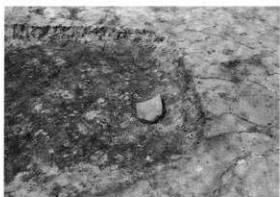
写真図版63図 S I 3008竪穴住居跡 (2)



S I 3009 全 景



遺物出土状況 ①



遺物出土状況 ②



作 業 風 景

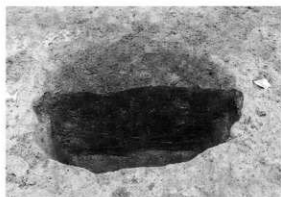


作 業 風 景

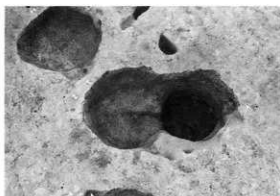
写真図版64図 S I 3009 竪穴住居跡



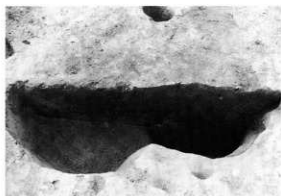
SK3167 全景



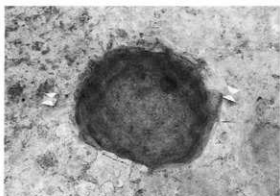
SK3167 埋土



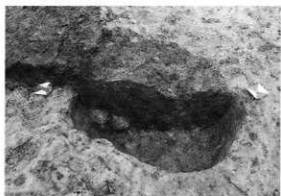
SK3168 全景



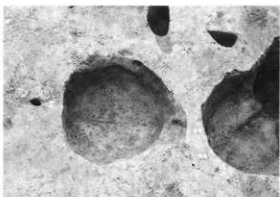
SK3168 埋土



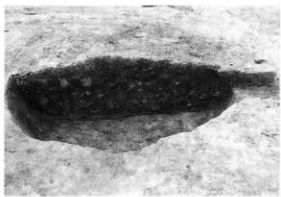
SK3169 全景



SK3169 埋土



SK3170 全景



SK3170 埋土

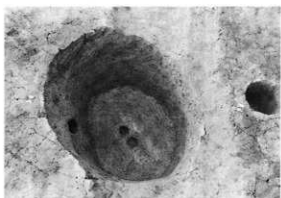
写真図版55 土坑跡(1)



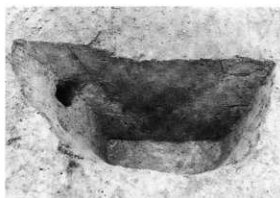
S K3171 全 景



S K3171 埋土断面



S K3172 全 景



S K3172 埋土断面



S K3173 全 景



S K3173 埋土断面



S K3174 全 景

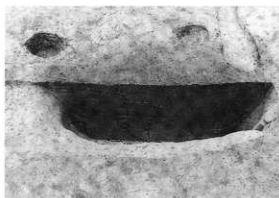


S K3174 埋土断面

写真図版66 土坑跡(2)



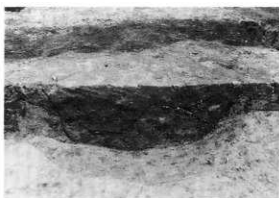
SK3175 全景



SK3175 埋土断面



SK3176 全景



SK3176 埋土断面



SK3177 全景



SK3177 埋土断面

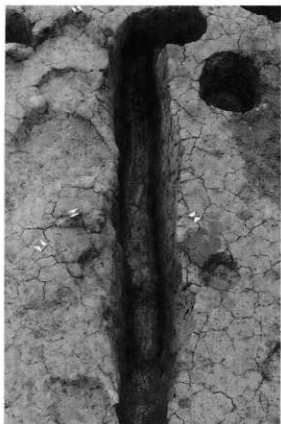


SK3178 全景



SK3178 埋土断面

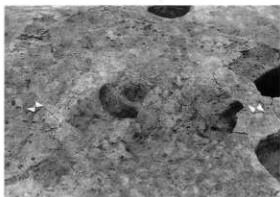
写真図版67 土坑跡(3)



SK3179 全景



SK3179 埋土断面



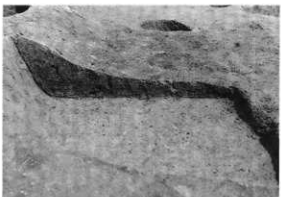
SK3180 全景



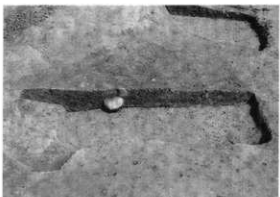
SK3181・3182 全景



SK3180 埋土断面



SK3181 埋土断面



SK3182 埋土断面

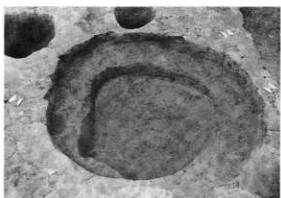
写真図版68 土坑跡94)



SK3183 全景



SK3183 埋土断面



SK3184 全景



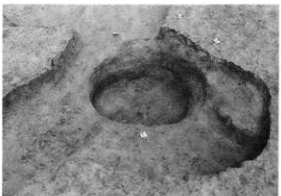
SK3184 埋土断面



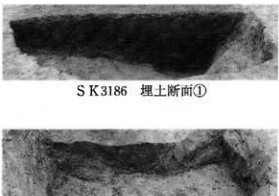
SK3185 全景



SK3185 埋土断面



SK3186 全景



SK3186 埋土断面①



SK3186 埋土断面②

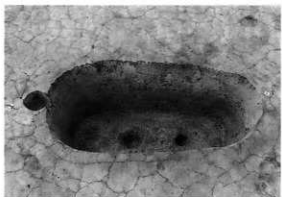
写真図版69 土坑跡(5)



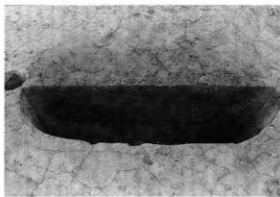
SK3187 全景



SK3187 埋土断面



SK3188 全景



SK3188 埋土断面



SK3189 全景



SK3189 埋土断面



SK3190 全景

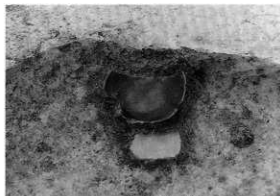


SK3190 埋土断面

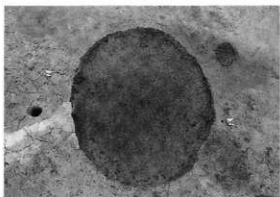
写真図版70 土坑跡(6)



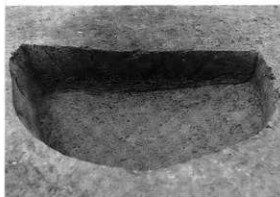
SK3191 全景



SK3191 遺物出土狀況



SK3192 全景



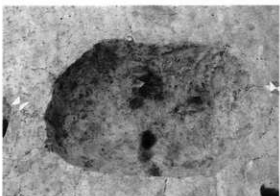
SK3192 埋土断面



SK3193 全景



SK3193 埋土断面

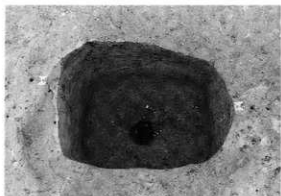


SK3194 全景



SK3194 埋土断面

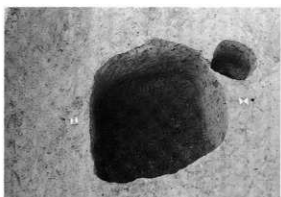
写真図版71 土坑跡(7)



SK3195 全景



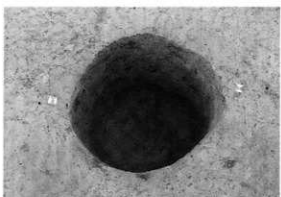
SK3195 埋土断面



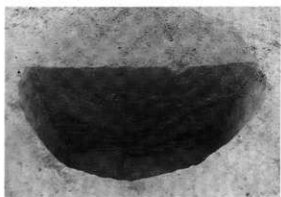
SK3196 全景



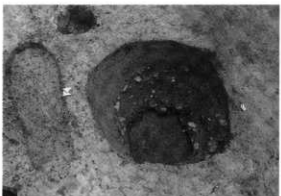
SK3196 埋土断面



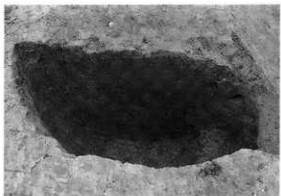
SK3197 全景



SK3197 埋土断面

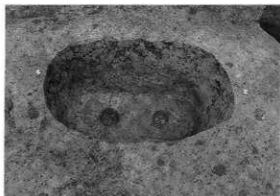


SK3198 全景

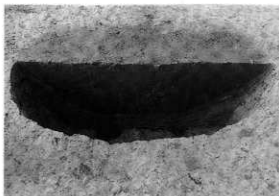


SK3198 埋土断面

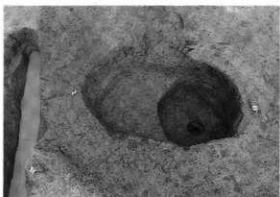
写真图版72 土坑迹(8)



S K3199 全景



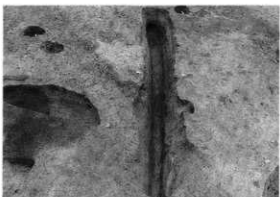
S K3199 埋土断面



S K3200 全景



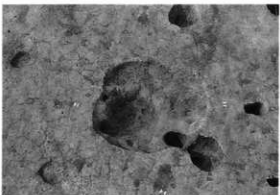
S K3200 埋土断面



S K3201 全景



S K3201 埋土断面

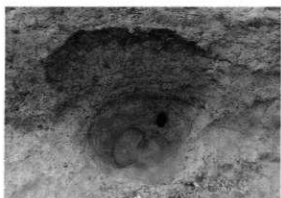


S K3202 全景

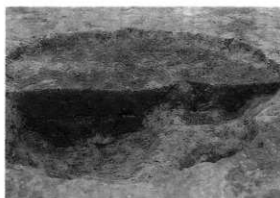


S K3202 埋土断面

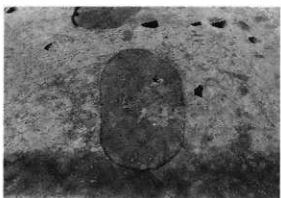
写真图版73 土坑跡(9)



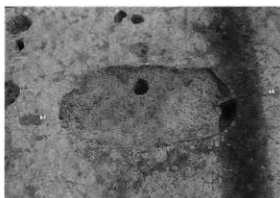
S K 3203 全 景



S K 3203 埋土断面



S K 3204 檢出狀況



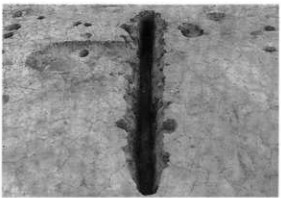
S K 3204 全 景



S K 3204 埋土断面



S K 3204 遺物出土狀況

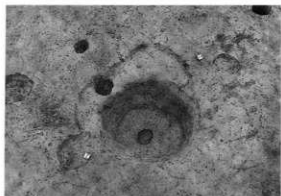


S K 3205 全 景



S K 3205 埋土断面

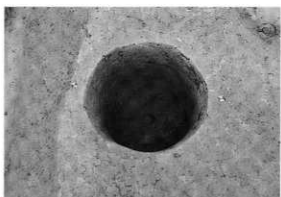
写真図版74 土坑跡(10)



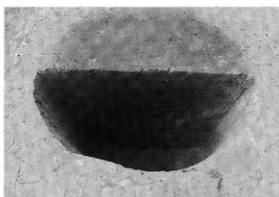
SK3206 全景



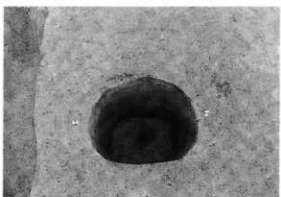
SK3206 埋土断面



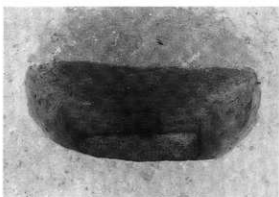
SK3207 全景



SK3207 埋土断面



SK3208 全景



SK3208 埋土断面



SK3209 全景



SK3209 埋土断面

写真図版75 土坑跡 (11)



S K3210 全景



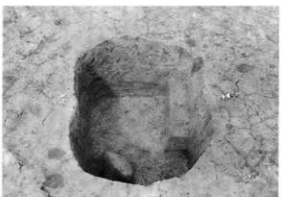
S K3210 埋土断面



S K3211 · 3212 全景



S K3211 · 3212 埋土断面



S K3213 全景



S K3213 埋土断面

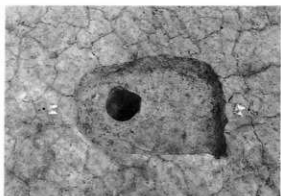


S K3214 全景

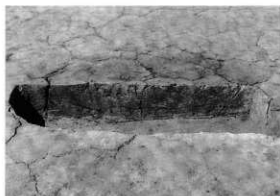


S K3214 埋土断面

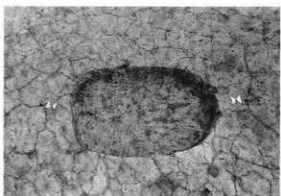
写真図版76 土坑跡 (12)



S K3215 全 景



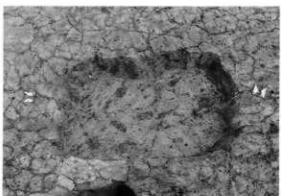
S K3215 埋土断面



S K3216 全 景



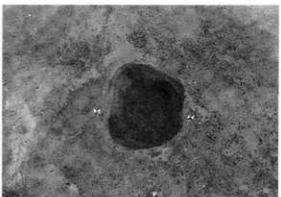
S K3216 埋土断面



S K3217 全 景



S K3217 埋土断面



S K3218 全 景



S K3218 埋土断面

写真図版77 土坑跡 (13)



SK3219 全景



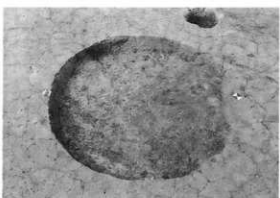
SK3219 埋土断面



SK3220 全景



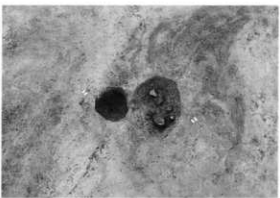
SK3220 埋土断面



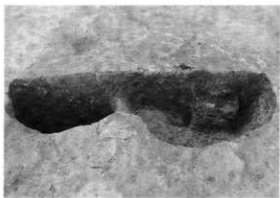
SK3221 全景



SK3221 埋土断面

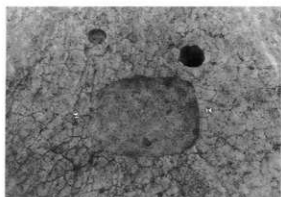


SK3222 全景



SK3222 埋土断面

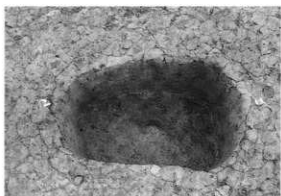
写真图版78 土坑跡 (14)



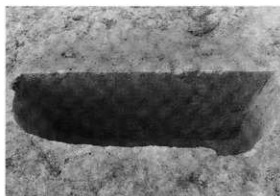
S K3223 全 景



S K3223 埋土断面



S K3224 全 景



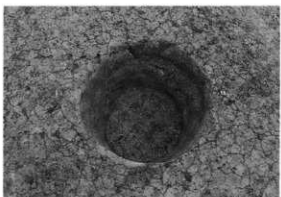
S K3224 埋土断面



S K3225 全 景



S K3225 埋土断面

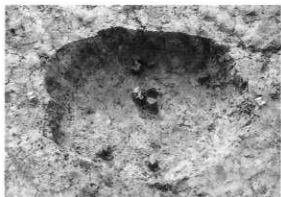


S K3226 全 景



S K3226 埋土断面

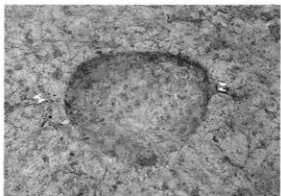
写真図版79 土坑跡 (15)



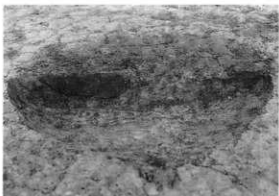
SK3227 全景



SK3227 埋土断面



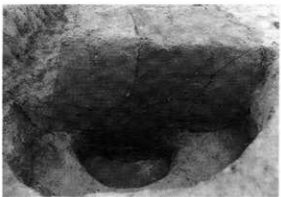
SK3228 全景



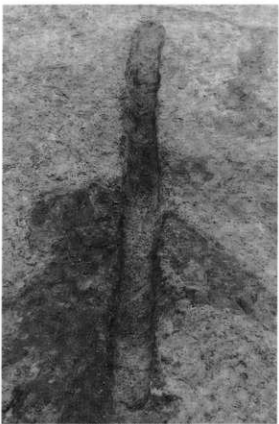
SK3228 埋土断面



SK3229 全景

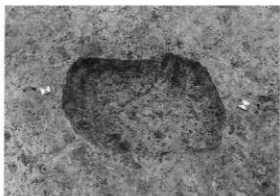


SK3229 埋土断面



SK3230 全景

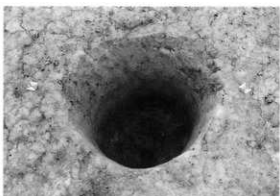
写真図版80 土坑跡 (16)



S K3231 全景



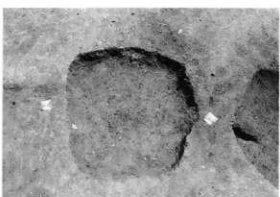
S K3231 埋土断面



S K3232 全景



S K3232 埋土断面



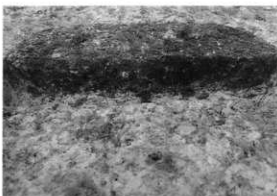
S K3233 全景



S K3233 埋土断面



S K3234 全景

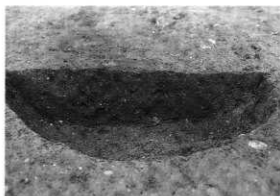


S K3234 埋土断面

写真図版81 土坑跡 (17)



S K3235 全 景



S K3235 埋土断面



S K3236 全 景



S K3236 埋土断面



S K3237 全 景



S K3237 埋土断面

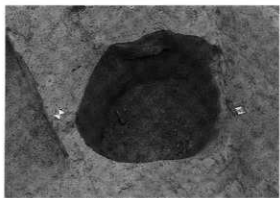


S K3238 全 景

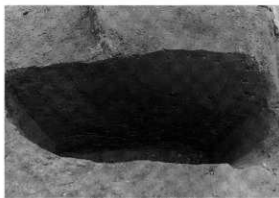


S K3238 埋土断面

写真図版82 土坑跡 (18)



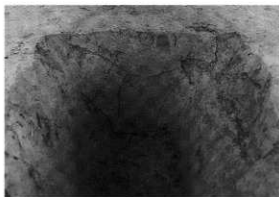
SK3239 全景



SK3239 埋土断面



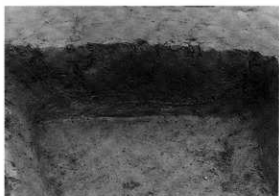
SK3240 全景



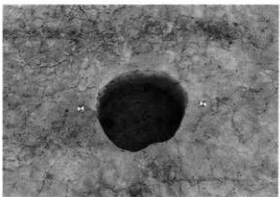
SK3240 埋土断面



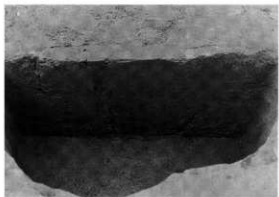
SK3241 全景



SK3241 埋土断面

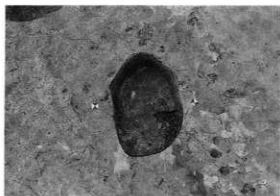


SK3242 全景



SK3242 埋土断面

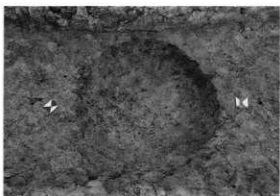
写真图版83 土坑跡 (19)



S K3243 全景



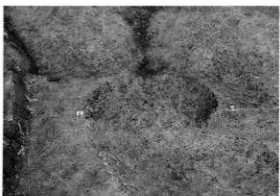
S K3243 埋土断面



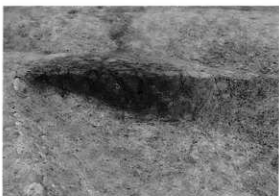
S K3244 全景



S K3244 埋土断面



S K3245 全景



S K3245 埋土断面



S E 3011 全 景



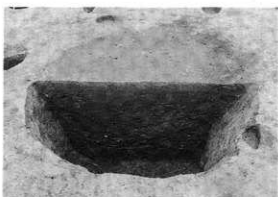
S E 3011 埋土断面①



S E 3012 全 景



S E 3011 埋土断面②



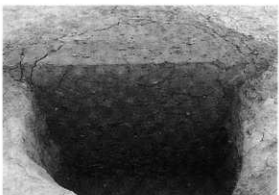
S E 3012 埋土断面①



S E 3012 埋土断面②

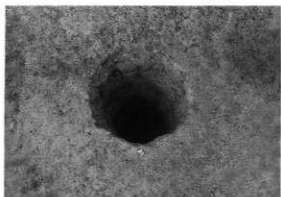


S E 3013 全 景



S E 3013 埋土断面

写真図版85 井戸跡(1)



S E3014 全 景



S E3014 埋土断面



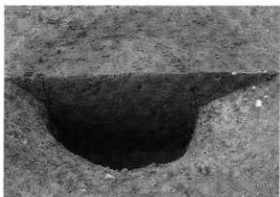
S E3015 全 景



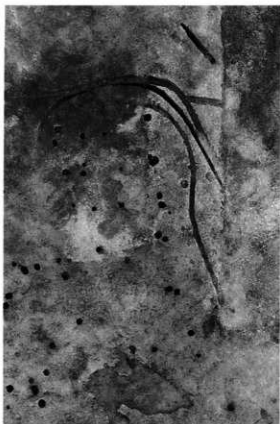
S E3015 埋土断面



S E3016 全 景



S E3016 埋土断面



SD3013 全景



SD3013 埋土断面①



SD3013 埋土断面②



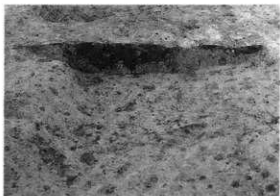
SD3014 全景



SD3014 埋土断面



SD3015 全景



SD3015 埋土断面

写真図版87 溝跡(1)



SD3016 全景



SD3016 埋土断面



SD3017 全景



SD3017 埋土断面



SD3018 全景



SD3018 埋土断面



SD3019 全景

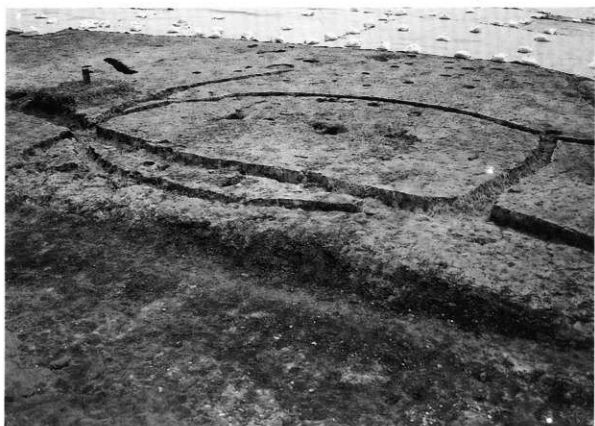


SD3019 埋土断面

写真图版88 沟迹(2)



S X3027 全景



S X3028 全景

写真図版89 馬蹄形状周溝(1)



S X 3031・3032 全景



S X 3035 全景

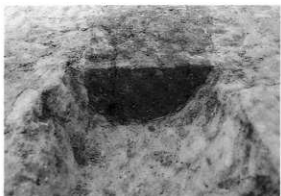
写真図版90 馬蹄形状周溝(2)



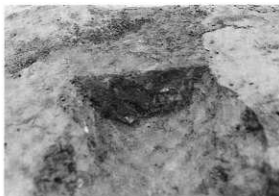
S X 3027 埋土断面①



S X 3027 埋土断面②



S X 3028 埋土断面①



S X 3028 埋土断面②



S X 3028 埋土断面③



S X 3031・3032 埋土断面①



S X 3031・3032 埋土断面②



S X 3035 埋土断面

写真図版91 馬蹄形状周溝(3)



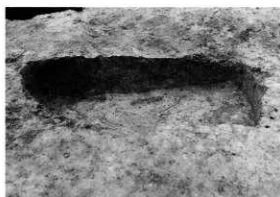
S X3018 全景



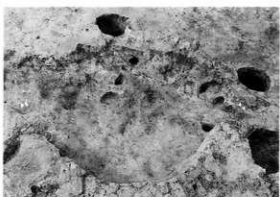
S X3018 埋土断面



S X3019 全景



S X3019 埋土断面



S X3020 全景



S X3020 埋土断面



S X3021 全景



S X3021 埋土断面

写真図版92 不明遺構(1)



S X 3022 全 景



S X 3022 埋土断面



S X 3023 全 景

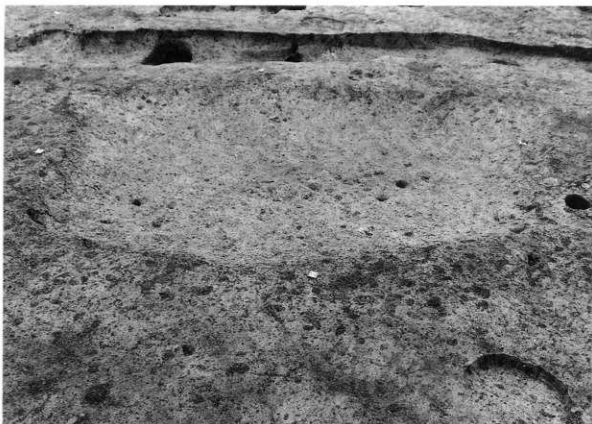


S X 3023 埋土断面①

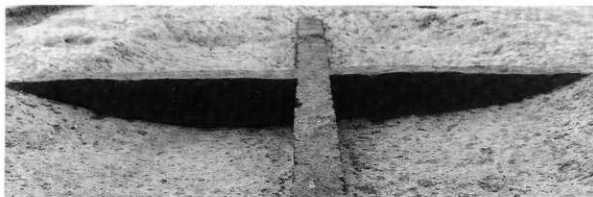


S X 3023 埋土断面②

写真図版93 不明遺構(2)



S X 3024 全 景

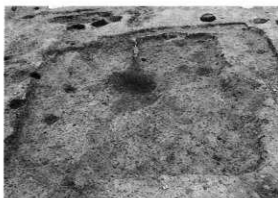


S X 3024 埋土断面①



S X 3024 埋土断面②

写真図版94 不明遺構 (3)



S X 3025 全 景



S X 3025 埋土断面①



S X 3038 全 景



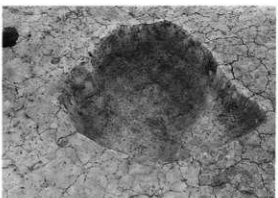
S X 3025 埋土断面②



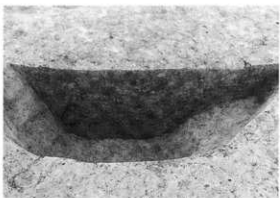
S X 3038 埋土断面



S X 3038 遺物出土状況



S X 3029 全 景

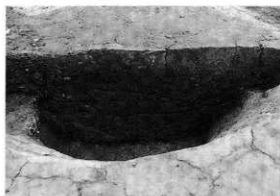


S X 3029 埋土断面

写真図版95 不明遺構(4)



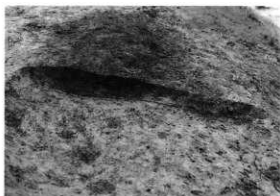
S X 3034 全 景



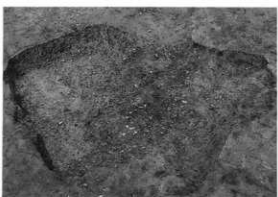
S X 3034 埋土断面



S X 3036 全 景



S X 3036 埋土断面



S X 3037 全 景



S X 3037 埋土断面

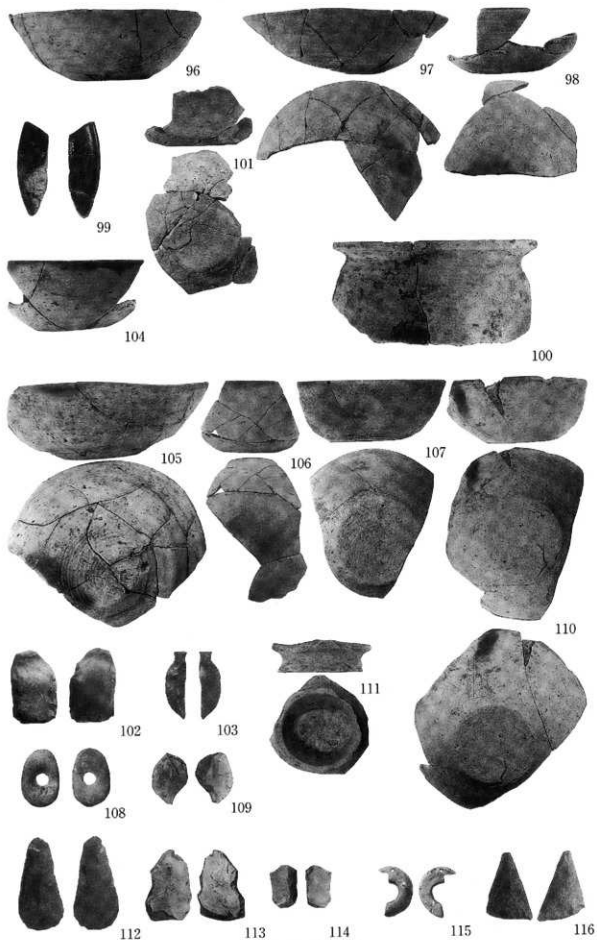


S X 3039 全 景



S X 3039 埋土断面

写真図版96 不明遺構(5)



写真図版97 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	しもうえたいせき							
書名	下植田遺跡							
副書名	姉体地区圏状整備事業（担い手育成区画整形形）に伴う緊急発掘調査							
巻次	2							
シリーズ名	水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	佐藤良和							
編集機関	財水沢市文化振興財団 水沢市埋蔵文化財調査センター							
所在地	023-0003 岩手県水沢市佐倉河字九蔵Ⅱ96-1 TEL 0197-22-4400							
発行年月日	西暦2003年3月22日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡跡名	所在地						m ²	
しもうえたいせき 下植田遺跡	しんま 真城字 下植田地内	市町村	遺跡番号	39°05'44"	141°09'53"	20000405	4,000	圃場整備
						20000804		
	03204	NE37-110	20010611			2,900		
			20010907					
所収遺跡跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
下植田遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代 近世		土坑 111基 竪穴住居跡 6棟 掘立柱建物跡 12棟 井戸跡 14基 溝跡 18条 馬蹄形状周溝 5基		石器 土師器 須恵器 須恵系土器 陶磁器	縄文時代の狩り場 近世屋敷跡の全域を調査	

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第17集

下植田遺跡

平成15年3月22日 発行

編集／発行 財団法人 水沢市文化振興財団
水沢市埋蔵文化財調査センター
〒023-0003 水沢市佐倉河字九藏田96-1
電話 0197-22-4400
FAX 0197-22-4600

印刷 鈴木印刷株式会社
〒023-0001 江刺市岩谷堂字松長根15-5
電話 0197-35-4515
FAX 0197-35-4518